

朝鮮聞見錄

佐田百菜軒

上

東泉園香韻				
二冊	一冊	一冊	三函	類

佐田白茅輯

朝鮮聞見錄

明治八年  
乙亥三月

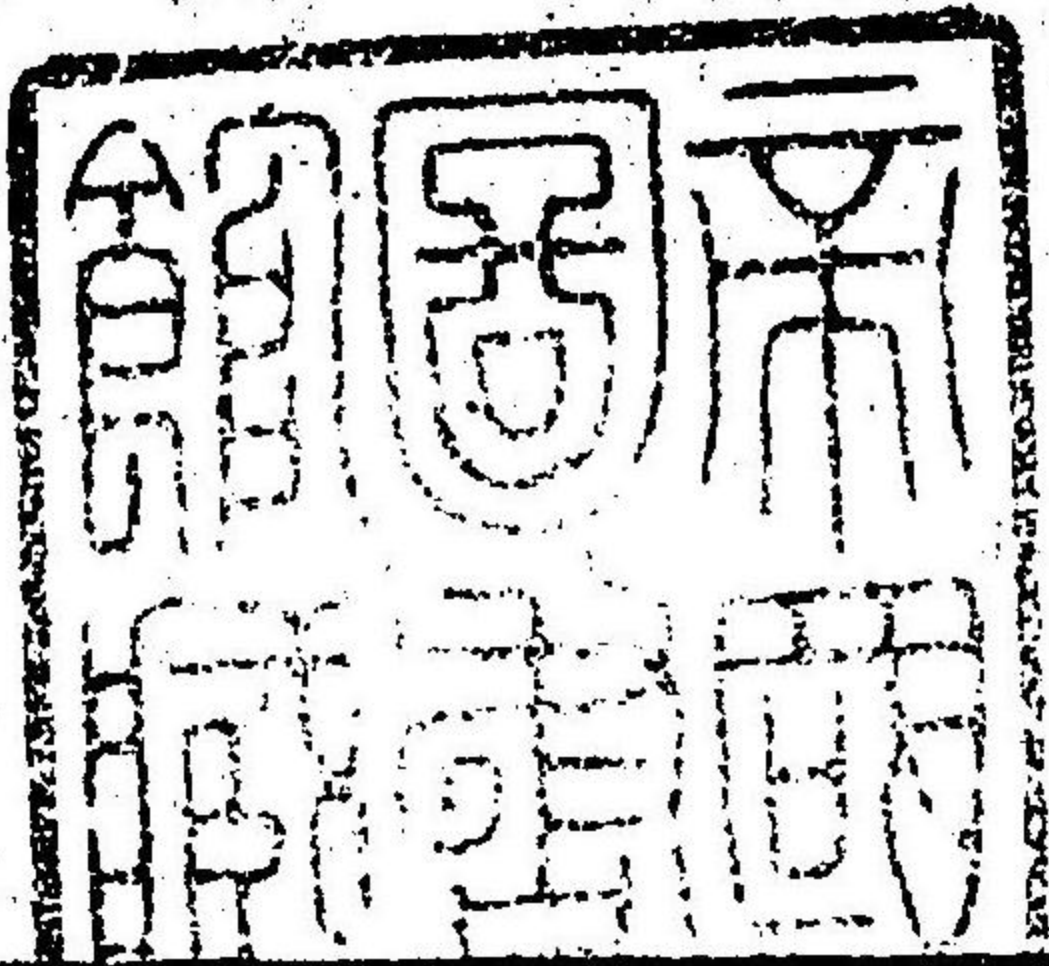
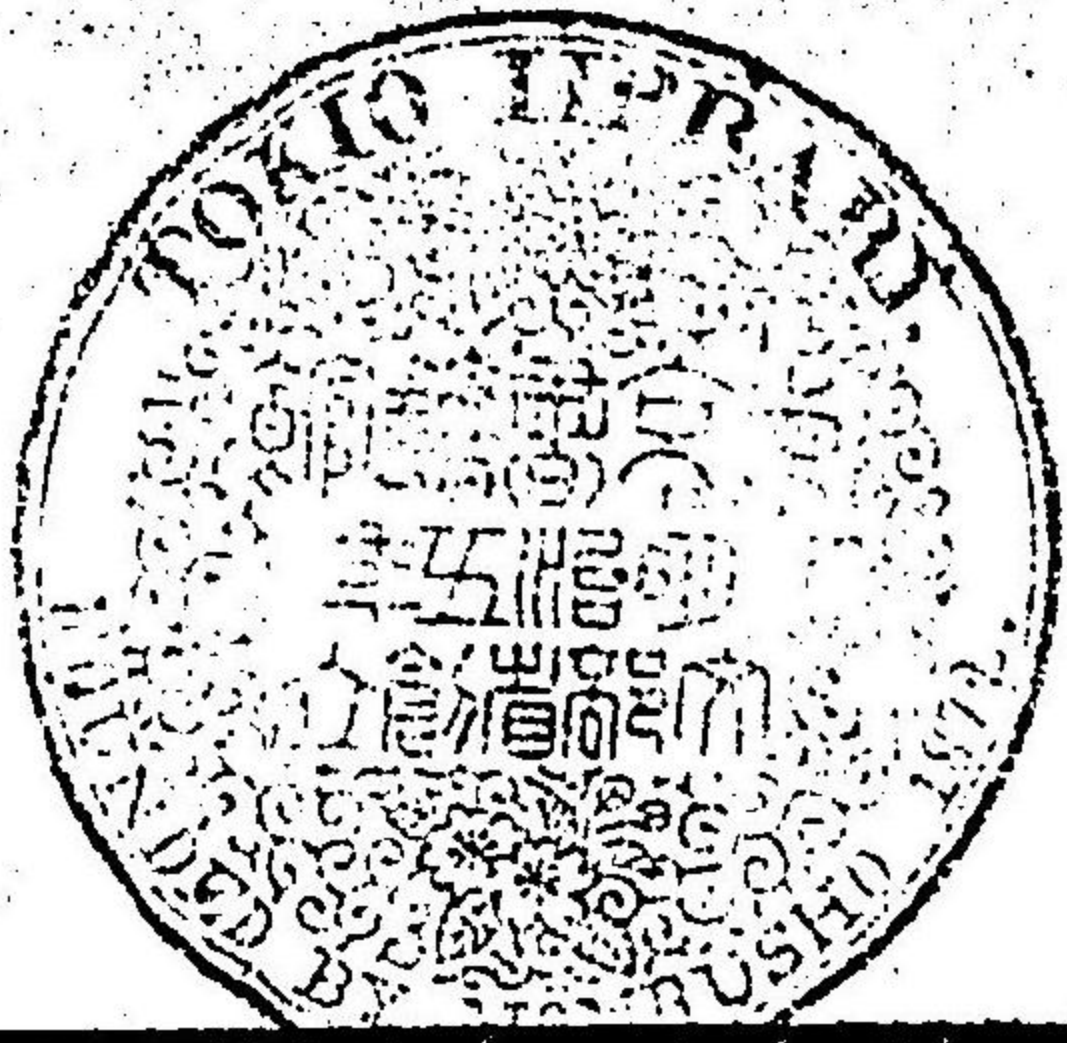
玉山堂發



明治元年圖書寮交付

朝鮮聞見錄序

所守者法所遵者理揣其國  
力而處時勢之變焉各國交  
際之道如斯而已矣古昔王朝  
之盛朝鮮之為我外府固勿  
論也慶元以降每幕府禪



代國王必發使入貢伸慶未嘗  
失舊典也况近歲太政維新  
紀綱振肅治體修明彼當瞻  
仰而服事之不遑焉今乃遷延  
不修使聘遂自我傳旨諄汝說  
謫收尚拘泥於舊規頑然區

名義是爭至今不回答彼豈  
獨不目方今交際之盛聲  
棄相通萬里比鄰乎而不自  
揣勢力之所適抑其所遵守  
者何法何理敢抗衡上國然而  
朝廷不遽問其罪者蓋仁民愛

物之心於惘其愚有所寬宥之  
怨歎聞現今彼既悔悟欲謝前  
罪乃出廟謨深遠恩威兼至  
遂有所感孚之然歎故之留  
米藩佐田氏嘗奉使與彼諸官  
司屢應接詳其事情作書

若干奏上之今又梓此編  
念佐田氏職勞靡盬之際操  
志不遺力凡彼文物制度以  
及地理兵備之要夙依人情  
之異皆自擊而手記之固此  
好事者以想像臆度之見

妄談論外事者之出也然  
 則於他日朝廷處實彼之方  
 其或有所資焉姑書之以誌  
 二〇五〇三十五年 第二頁  
 鷗  
 侶 潤 機 序

得所老人書



朝鮮聞見錄

目次

上卷

交際

冠

婚

喪

祭

雜誌

下卷

朝鮮聞見錄

目次

朝鮮畧圖

武備  
刑罰  
山川  
戶籍  
儲畜  
欽承  
官制

朝鮮開見録卷之上

佐田白茅纂輯

交際コウサイ

○太政復古ノオリカテ、宗對馬守ハ御達シアリ、朝鮮國ハ舊來ノ交義アルニ付、同國ヘ今般太政ヲ復古シ幕府ヲ廢シタル所以ヲ書記シテ、自今益々親懇シンコンセン事ヲ報告スヘシ、對馬守此旨ヲ漢文ニ綴リ、朝鮮國ヘ報知ス、其大意左ノ如シ、  
○我カ邦ハ皇統一系ニシテ、太政ヲ總攬ソウランスルヲ、

二千有余年ナリ、然ルニ中世ヨリ兵馬ノ權ヲ  
 武將ヘ委任シ、外國ノ交際モ、并セテ之ヲ管セ  
 シム、爾後太平ノ久シキ流弊ノ事件ナキ能ハ  
 ズ、爰ニ我カ皇上、更ニ綱紀ヲ張り、萬機ヲ親裁  
 ス、貴國ハ交義已ニ久シ、宜シク益々懇款ヲ結  
 ビ、萬々世マデ、渝ラザルヲ要ス、是レ我カ皇上  
 ノ盛意ナリ、乃チ使節ヲ馳セ以テ舊好ヲ修ム、  
 冀ハ此旨ヲ諒知セヨ、

○宗對馬守右ノ報知書ヲ朝鮮ヘ渡ストキ先問  
 書契ト唱ヘル書翰ヲ添テ渡シタリ、其趣意左

ノ如シ、

○我レ勅ヲ奉シ京師ニ朝ス朝廷特ニ舊勲ヲ賞  
 シ、爵ヲ加ヘ、官ヲ左近衛少將ニ進メラレタリ、  
 又證明印記ヲ賜ル、之ニ依テ、今般新印ヲ押シ、  
 新官名ヲ記シテ、別紙ヲ贈リ、以テ朝廷ノ誠意  
 ヲ表ス、貴國此旨ヲ領シ、兩國ノ交際、益々厚ラ  
 シムヲ望ムナリ、  
 ○日鮮互ニ書翰ヲ受渡ス前ニハ、書翰ノ寫ヲ互  
 ニ示シテ、双方異議ナキ上ニテ、禮ニ依リ、之ヲ  
 受ケ、之ヲ渡スヨシ、



○朝鮮政府ニ於テハ、右ノ書翰ノ寫ヲ受ケ、廣ク  
公論ヲ盡クストテ、リョウシ西班ノ文官武官へ、返書ノ  
趣意ヲ下問シタリ、文官ノ説ニハ、書面ノ文字  
ハ豪慢ナレト、太祖ノチヨウソ提書ニモ東相ニ信ヲ失  
ハザレバ、永ク國ヲ保ツベシトアレバ、程能ク  
返翰ヲ贈ルベシト云フ、武官ノ論ニハ三百年  
來往復ノ書翰中へ、未タ曾テ見ザル、放肆無禮  
ナル文字ヲ擧ゲタルハ、定テ日本ヨリ我國ヲ  
屬國ト、為サント欲スル意ナルベシ、若シ漫然  
之ヲ受ケバ、今ヨリ後チ何等ノ事ヲ申向ルモ

計リ難シ、断然之ヲシツ損ケ、返スベシ、決テ受クベ  
カラズナリ、當時朝鮮ハ國王ノ實父ニ太殷君  
アリ、國王ニ代リ、政權ヲ掌握ス、一日太殷君政  
府ニ臨ミ、文武兩官ノ議事ヲ判断シテ、曰ク武  
官ノ説ヲ採ルベシ、乃チ此事ヲ日本ノ交際ヲ  
管轄スル、東萊府使へ下ス、東萊府使ヨリ、和館  
ノ近傍ニ出張スル、朝鮮官員へ談判ヲ委任ス、  
○宗對馬守ヨリ、書翰ヲ持テ遣シタル、大差使并  
副使ヨリ、朝鮮官員へ迫リテ、本書ヲ受込ミ、至  
急返翰致スベキ旨ヲ、度々催促ス、朝鮮官員初

ハ何カワカラヌヲ述ベタリシガ、詰リ書翰  
 上ノ文字、宜カラサル事ヲ言ヒ出シ、至急ニ本  
 書ヲ受込ミ、返翰差出スヲ得ス、熟議スル十二  
 三年ナラズンバ、決シ難シナド、申向ケタリ、  
 ○政府ヨリ宗對馬守へ、朝鮮ノ返答振リテ、御尋  
 アリ、又外務省へ朝鮮事情ヲ、探索スル御沙汰  
 アリ、

○明治二年ノ冬、久留米藩佐田白茅、和州森山茂、  
 東京齋藤榮三人ヲ朝鮮交際始末取調御用ト  
 シテ朝鮮國へ發遣セラレ、且ツ同國ノ近情ヲ、

探索セシム、同三年ノ春、歸朝シテ探索書若干  
 フ貢ス、

○佐田白茅外兩人、朝鮮官員へ面會セシトキ、佐  
 田ヨリ朝鮮官員ノ訓導安僉知へ、示談ス、日本  
 近來蒸氣船六十二艘ヲ繫ギ、各國へ航海ス、時  
 宜ニヨリ、貴國ノ何港へ着シ、薪水等ヲ請求ス  
 ルアラバ、異義ナク、之ヲ賒リ、且ツ上陸ヲ許ス  
 ベシ、此義ハ斷然通達切リニ致スナリ、訓導答  
 テ曰ク、必ず政府へ達シ、諸方ノ港へ布告スベ  
 シト云豊公征伐後ハ、日本漂流人ノ上陸ヲ禁

ジ、其船ヨリ直ニ和館ヘ送り届ルヨシ、

○佐田輩ヨリ、大差使ニ謂テ、曰ク朝鮮ヨリ書翰ヲ受込マザル所以ヲ同國官負ヘ其譯ヲ明瞭ニ書記イタサセ、其書ヲ受取り、副使一名歸朝シテ、其書ヲ政府ヘ奉ルベシ、又告ゲテ曰ク、若シ其書ヲ政府ヘ奉リ、不都合ノ事ヲ醸サバ、佐田白茅断然割腹シテ、謝罪スベシ、決シテ使節ヘ迷惑ヲ掛ケズ、二念ナク、取計ヒアルベキナリ、

○明治三年庚午三月、朝鮮東萊府使ヨリ、對州大

差使宛ノ覺書ニ云ク、貴國ノ皇ト稱シ、勅ト稱スルハ、國內ニ於テ、議論ナケレバ、其國ヘ行フベシ、然レモ、此重寶ノ字ヲ、弊邦ヘ行フハ、如何ガヤ、弊邦ノ受ケザルヲ知リツ、輕シク試ルニ、此ノ文字ヲ以テス、貴國ハ甚ダ不諒ノ至ナリ、常舊ニ從フテ、和ヲ失ハザルニ若カス、左近衛朝臣ノ字、并圖書換用ノ説、又大人ノ字ヲ改メ、公ト書往復書翰未ニ我ヨリ彼ヲ貴ヒ朝鮮官負姓名ノ下ニ大人ト書テ贈リ來公ト書シ此節改テスルハ、曉ルベカラズ、交際ノ道ハ、舊ヲ守リ、久ヲ持ツニ若カズ、貴國ハ、通練

贊畫ノ人多シ、然ルニ此ニ出デズ、深ク慨スベシ、

○訓導俊卿安食知ヨリ覺書ヲ出ス、其大意左ノ如シ、

○左近衛少將

功ニ因リ、秩ヲ増シテ、此ノ官名アルト雖、臣本國ニ行ハ可ナリ、隣國交際ニ用ユルハ、宜シカラズ、交際ニハ、講定シタル、規則アリ、何ゾ易ユルヲ得ンヤ、我國ノ禮曹參議ハ、元ト右侍郎東萊府使例、兼禮曹參議ナリシモ、初ヨリ刪テ書

セズ、貴國ハ何ゾ獨リ、前例ニ從ハザルヤ、

○平朝臣

往牒ヲ歴考スルニ、高官大職ノ人モ、未ダ官職ヲ姓名ノ中間ニ、贅スルアラズ、此亦格外ナリ、

○書契押新印

此迄ノ舊章ニ因ルベシ、今改ルニ、他ノ印ヲ以テセント欲スレ、臣、決シテ受クベカラズ、

○禮曹參判公

公ハ、是レ君公ノ稱ナリ、五等ノ公侯ノ爵ハ、之ヲ大人ニ比スレハ、賤降ニアラズ、蓋シ兩國交

際ノ書翰ノ稱ハ、大人ト書キ來ルヲ、既ニ三百  
年ナリ、今忽チ公ト稱ス、是レ格外ナリ、此モ舊  
典ニ依ルベシ、

○皇統皇室

皇ハ、是レ天下ヲ統一シテ、溥天率土ヨリ、尊敬  
スル稱号ナリ、之ヲ貴國ニ行フト雖氏、之ヲ西  
國往復ノ書中ニ、行フベカラズ、交際以來、未ダ  
之ヲ用ユル有ラズ、此ノ重寶ノ字ハ、決シテ受  
クベカラズ、

○奉勅

勅ハ、是レ天子ノ詔令ナリ、此亦貴國ニ行フベ  
シ、交際以來、瓶見ル字ナリ、受クベカラズ、

○大抵兩國ノ約條ハ、金石不刊ノ文ナリ、書契往  
復モ、汗漫ノ文字ニ非ズ、苟モ一言ノ格ニ違フ、  
一字ノ眼ニ碍スル、必ズ容受スルノ理ナシ、百  
年相待ツトモ、徒ニ隣好ヲ傷ルノミ、豈ニ事ヲ  
濟スルアラシヤ、想フニ貴國ニモ、深ク事體道  
理ヲ識ル人アラン、而シテ終ニ悟ルヲ知ラズ、  
深慨ノ至ナリ

○副使 菟田多記 右ノ二書ヲ携テ、外務省へ出ス、

佐田輩之ヲ政府へ奉レリ、

○佐田輩歸朝シテ、朝鮮へ皇使ヲ下シ、斷然談判スベシ、若朝鮮國王ニ於テ、皇ト稱シ勅ト稱セシ書ヲ、彌以テ受ケザル旨ヲ、明ニ返答セバ、立ニ征伐アルベシトテ、建白セリ、

○明治三年夏月、吉岡徹藏、森山茂、廣津弘信、外數人朝鮮國へ出張ス、朝鮮官員へ、毎々應接スレ氏、相替ラズ、深沈狡奪ニシテ、埒明カザルヨシ、  
○明治四年ヨリ、森山茂、廣津弘信、交代シテ、毎々朝鮮へ在勤セリ、

○明治七年、朝鮮政府ニ於テ、頻年固執ノ頑論ヲ醒悟シ、鄰交ノ阻隔モ釋然開通シテ、頗ル既往ヲ悔ユル、模様ニテ、同國詰メノ森山茂へ、前非悔悟ノ事情ヲ縷々懇々説キ語りタルヨシ、同國ノ頑僻、遽ニ破レタルハ、全ク臺灣砲伐ノ響キナラント、風説アリ

烏有先生評ニ曰ク、朝鮮ノ前非悔悟ハ、我邦ニ於テ聽クベシト雖、七年間我ガ使節ヲ愚弄シテ、一新ノ返書ヲ、今日マデ引キ延シタル罪ハ、是非糺サズンバアルベカラズ、我

レ果シテ貪ルニ非ラズ、謝罪ノ實効ヲ表セ  
シメント欲ス、此迄朝鮮ヨリ貸シ與ヘタル  
草梁項ノ二万坪へ、八万坪ヲ増加シ、又江華  
府近傍へ、地所十萬坪、兩所ヲ無税ニテ、永世  
獻セシメ、外ニ礦山十ヶ所ヲ貢ゼシムベシ、  
若シ之ヲ聽カズンバ、真ノ悔悟ニアラス、斷  
然止ヲ得ザルノ處置ニ、及ブベシ、

○日鮮交際ノ始未ヲ尋ルニ、朝鮮ノ通信使來聘  
ノ義ハ、廢幕へ外國慶吊掛リノ者使節トシテ、  
渡海シ、國書土産ヲ齎シ來テ、賀傷ノ辭ヲ陳ス、

舊來武州江戸ニ於テ接待ス、文化辛未ヨリ、聘  
禮地ヲ易へ、對州ニ於テ交禮ヲ行フ、對州朝鮮  
不時ノ禮節ハ、對州家老初其以下ニテ、事柄ニ  
應シ、相當ノ使者差渡シ、書契并土産往復贈答  
取計リ來ルヨシ、

○朝鮮國ヨリ日本へ、應接ノ官員、禮曹參判參議  
佐郎ヲ初メ、東萊府使金山僉使ノ兩官ヨリ勤  
ム、其以下譯官ノ内ヨリ一兩人ツ、和館近邊  
ノ任所へ、平常出役シテ、館中ノ諸用ヲ相勤ム、  
○歲遣船ト名ケ、年々使ヲ差渡シ、書契往復、双方

ノ有無貿易シ來ル、對州ヨリ重立差渡ス品ハ、銅并胡椒明禁丹木等ニテ、何レモ廢幕ヨリ定額ヲ以テ賣渡シ有リ、朝鮮ヨリ右代ニ當ル木綿精米兩品ヲ受取り來ル、

○對州ノ切手所持不致船ハ、朝鮮ニテ海賊船ヲ以テ、處置スルヨシ、

○慶尚道草梁項ノ地ニ和館居對州人ノ取設ケ、裁判人一名ヲ差遣置キ、隣交ヲ管セシム、之ヲ館守ト云、別ニ會計員其他水夫マテ、凡三百人出張ス、

○和館ノ地境ニ、關門ヲ設ケ、關門内對州人ノ出行又朝鮮ヨリ嚴禁ス、

冠

○加冠ハ、十五歳ヨリ二十歳マテノ内ニ、時ノ宜シキヲ考ヘ、吉日ヲ擇ビテ、冠禮ヲ行フ、冠禮ノ日ニハ、夙ニ起キ、髮ヲ洗ヒ、擗リ、垂髮ヲ頂ニ結ヒ、綱巾ヲ額ニ當テ、帽子ヲ冠リ、笠ヲ蒙リテ、新衣ヲ着シ、兩親先祖師匠ニ再拜シテ、大宴ヲ開クヨシ、



婚

○婚姻ハ、恣テ婚ノ歳ヨリ、長ズル婦ヲ求ム、十四  
 五歳長ジタルモ嫌ハズ、又女ノ歳少シト雖モ  
 キラハザルアリ、最初女ノ年ヲ聞ルニ、宮舎ヲ  
 吟味イタシ、媒婆ヲ以テ、婚ヲ求ム、媒婆ハ中年  
 過タル女ヲ頼ミ、双方ノ媒ヲ致サセ、取組相濟  
 ミ日ヲ擇ビ、婚ノ方ヨリ、身分ニ應ジタル物品  
 ヲ以テ、納采ヲ行フ、又婚ノ親ヨリ書狀ヲ女ノ  
 方ヘ送り、女ノ親ヨリ又娘ノ人品ヲ、謙遜シテ、  
 返書ヲ認メテ、來使ヘ付ス、扱日ヲ擇ビ、婚ノ同

心ハ親類ノ中ヨリ一兩輩ナル兩班ハ輿ニ乘  
 リ、賤者ハ馬ニ乘リテ行ク、賤者ニテモ紗帽サカブ  
 背角帶ノ冠服ヲ、其区内ノ地頭ヨリ借り受ケ  
 テ行クヨシ、

○婚姻ノ式ハ、初二生鷹ヲ、紅襦ベニカサニ包ミ、頭ヲ少シ  
 出シ、持參リ、新婦ノ宅ノ庭前ニ、遮日ヲ張リ、臺  
 ニ鷹ヲ奠ヘ、舅ニ對シ、鞠躬シテ、四科ヲ畢テ、新  
 郎ヨリ新婦ヘ二拜、新婦又新郎ヘ四拜相濟シ、  
 新郎ノ前ニ、大束ヲ盛リ、備ヘ、新婦ノ前ニ、乾雉  
 ヲ備ヘテ、瓢盃ニ紅青ノ糸ヲツケ、新婦ヨリ新

郎へ遣ス、新郎新婦ノ両傍ニ、女添イ、盃ヲ取次ク、是ヲ新宴ト云、

○婚禮ノ式終テ、婿同心并附属ノ人へ、盛シニ酒宴ヲ開クヨシ、宴終テ新郎ハ新婦ノ房内ニ入ル、次ノ日、初テ舅へ見エ、三日目ニ、本宅ニ歸ルヨシ、此日夫婦ノ縁ヲ組テ、新郎ヨリ新婦へ誓文ヲ手ヅカラ、渡スヨシ、

○婦ヲ迎ルニモ、日ヲ擇フ、官品ノ女ハ、輿ニ乘リ、以下ハ馬上ニテ、長衣ヲ着以、夫ノ宅ニ至リ、舅姑ニ四拜ス、

喪

○方ニ絶スル時、男ニハ女ノ手ヲ放ナサス、女ニハ男ノ手ヲ放ナサス、絶スレハ、早速新キ綿ヲ以テ、面ヲ覆テ、哭ス、又死者ノ上着ヲ取テ、家ノ外ニ出シ、北ニ向ヒ、死者ノ名ヲ三度呼ビ、復タ其衣ヲ尸ノ上ニ覆ヒ、男女尸ノ側ニ集リテ、哭ス、身近キ者ハ、男女尸ニ髪ヲツカ子飾服ヲ去ル、喪主ハ早速喪服ヲ仕立テ、二日ノ内ニ、諸々ノ用意ヲ致ス、三日目ニ入棺スルヨシ、入棺スル前ニ子セナガテ、静カニ沐浴ヲサセ、髪ヲ櫛

リ、新キ服ヲキセ、新キ木綿ヲ以テ、多シ捲身ヲ卷キ、  
肩ヨリ裾マテ、手足捲身共ニ、一ツニ纏マメ、七所  
ニ結ヒ、手足ノ爪、其外常ニ身ニ著タル、手輕キ  
品ハ、新キ袋ニ入レ、棺ノ内ニ納メ、棺ヲ脇ニ置  
キ、屍ハ屏風ヲ以テ圍ヒ、枕ヲサセ、衾ヲ着セ、暫  
シテ真珠シシ又ハ無孔珠ムコウシ何レニテモ、三ツ、又米ニ  
升ヲ水ニ浸シ差出ス、此時尸ニ向ヒテ、枕ヲ放  
ヅスゾヨト、側ノ者ヨリ、呼ハリケレバ、喪主匙  
ヲ以テ水米ヲ口ニ濺キ、口ノ中左右ニ、真珠ヲ  
入置キ、始ノ如ク枕ヲサセ、喪主哀テ、席ヲ去ル

能ハズ、側ノ者ヨリ、強テ連レ出ツ、而テ間モナ  
ク、尸ヲ棺ニ納ト云、

○棺ノ外ハ、漆ウレシヲ以テ塗上ケ、内ハ紙張リ、又棺ノ  
外ニ、處々雲ヲ画キ、又棺ノ上ニ、絹ヲ以テ棺ノ  
見ヘガル様ニ覆フ、貧賤ノ人ハ、紙ヲ以テ覆フ、  
靈坐定リテ、燭ヲ灯シ、香ヲ奠ヘ、膳部三ツ、常ノ  
如シ、魚肉酒菓ヲ備フト云、

○膳部三ツノ内一膳ハ死ヲ迎タル鬼神ニ奠ヘ、  
一膳ハ死人ヲ導キタル鬼神ニ奠ヘ、一膳ハ尸  
ニ奠ト云、

○葬ハ、日ヲ擇ビ、時尅ヲ吟味ス、白晝ニ家ヲ出立  
 シ、把松ヲ持テタル人アリ、箱ヲ持テタル人ア  
 リ、靈車ノ兩脇ニ燭ヲ燃ス人アリ、銘旌ヲ靈車  
 ノ先ニ持テタル人アリ、喪主ヲ初メ、親類皆車  
 ニスガリ、引留ル体ニテ、野外マテ、男女行々哭  
 テ送ル、

○葬ル時、頭ヲ北ニ向ケ、横ヲ前ニシテ、イカニモ  
 静ニ葬リ、棺ノ上ニ、銘旌ヲ置キ、埋ムルトキ、鐘  
 鼓ヲ鳴ス、塚ハ土ヲ丸ク高クシ、其上ニ石蘭ノ  
 如キ草ヲ置キ、其日野ニ魚肉酒菓ヲ持越シテ、

葬ヲ送ル諸人ハ、供ス、

○方相ハ木偶人ヲ作り、穢多ヲ雇ヒ、之ヲ荷セ、身  
 ニ獸ノ皮ヲ着セ、葬送ノ先ニ立タセ、野ニ至リ、  
 棺ヲ埋ムル前ニ、穴ヲ廻リ、土中ノ悪鬼ヲ拂フ  
 体ヲナサシムト云、

○銘旗ハ、赤キ絹ニテ、白ク字ヲ書キ、絹幅ニメ、長  
 廿八尺ニ、何道何地某官某公ノ柩ト書キ、旗ノ  
 如クニメ、棺ノ脇ニ立置キ、葬送ノ時、持越スト  
 云、

○貧賤ノ者、雜費不届者ハ、衣類ヲ集メ、上ヲ木綿

ノ古キ切レニテモ、七所ヲ結ヒ、村外ノ處ニ、木  
ヲ組合セ、膝木ニメ、死尸ヲ横ニシ、其上ニ居ヘ、  
其上ヲ藁ニテ、厚ク圍ヒ、鳥獸ノ患無之ヤウニ、  
致スヨシ、

○靈車ハ、輿ノ如キ物ニテ、大中小三ツ有リ、下賤  
ノ者ニテモ、身分ニ過キル程、子ニヲ入ル、ヨ  
シ、

○風水ト唱テ、土地ヲ視察スルヲ、甚タ重ジ、方  
角ヲ見ル者、處々ヲ吟味イタシ、山ノ形チ、水ノ  
流レ、岩ノ形チ、死者ノ年シ、生日等ニ應シタル

土地ヲ能々看定スト云、之ニ依テ、方角ヲ見ル  
者ニ、衣食ヲ與ヘ、諸事手厚ク遇スルヨシ、埋葬  
スル所ハ、何地ニテモ、差支之レ無ケレバ、山ノ  
頂上、田畑ノ内ハ相成ラス、遠キハ百里外、近キ  
ハ十里内ニ葬ルヨシ、尤他ノ區内ヘ、葬ル時ハ、  
其地ノ官負ヘ伺フヨシ

○葬リ所ヨロシキ時ハ、子孫繁昌シテ、富貴ニナ  
ル、若シ惡シキ所ニ、葬ル時ハ、子孫ニ祟ルト唱  
フルヨシ、

○誌石ハ、平ラ目ナル石ニ死者ノ姓名官品生日

死日等ヲ鑄リ蓋底<sup>フタソコ</sup>ニ、廣キ石ヲ置キ、棺ニ漆  
ヘ埋ムルヨシ、

○神主ハ、中人以上ハ房内ニ開キ戸有之、棚<sup>タテ</sup>ノ内  
ニ、神主ヲ置キ、三年ノ間ハ膳部ヲ奠ヘルヨシ、  
先祖ノ靈名ハ、一面ニ連署シ、曾祖父ヨリ父迄  
ハ一名毎ニ、位牌<sup>イハ</sup>ヲ設ケ置クヨシ、下賤ノ者ハ、  
無之ト云ヘ、心アル者ハ、紙ニ書キ子孫ニ傳  
ルヨシ、

○中人以上ノ人、其身存生ノ内ニ、画像<sup>ガクゾウ</sup>ヲ寫サセ、  
子孫ニ傳ヘ、神主ト同ク並ヘ置クヨシ、

死日ヨリ四日目ニ親類殘ラズ、喪服ヲ着シ、家  
ノ前ニ假家ヲ設ケ、罪人ノ体ニ、諸事ヲ慎ム、其  
身魚肉ヲ食ラハス、晝夜四度ツ、哭シ、々々畢  
テ、靈座ニ拜ヲナシ、又喪人タガヒニ、揖<sup>ヒキウ</sup>ヲナス  
ト云、

○哭<sup>ウ</sup>ニ法アリ、ヨク哭スル者ナクメハ、乱雜ニナ  
リ、又哭過レハ、慎マザルニ似タリ、依テ哭者ヲ  
雇フテアリ、

○喪ノ七日目ヲ、初齋<sup>シヨサイ</sup>ト云、二七日ヨリ、七々四十  
九日迄ヲ、齋ト云、百ケ日ヲ百齋ト云、一年ヲ小<sup>シヨ</sup>

祥<sup>シヨウ</sup>ト云、三年ヲ大祥ト云、喪ノ事ハ、服制ノ法アルヨシ、

○國王崩日ヨリ、七日目ニ、世子即位ノ禮ヲ行ヒ、爾後服忌ヲ受クルヨシ、

○即位ノ日ヨリ、棺ヲ造リ、毎月一度ツ、漆ヲ塗リ、國喪ノ時、此棺ヘ納メルヨシ、

○國王ノ謚<sup>オウナ</sup>ハ、清國ヨリ贈ルヨシ、國內功臣ノ正二位以上ヘハ、國王ヨリ謚ヲ賜フ、

○起復ト唱フアリ、忌ヲ免スル事ニテ、限リアル人ハ、忌中ニモ公用ヲ勤メ令ムル事アリ、尤有

功有才ノ人ハ國ヨリ隣ミヲ以テ、起復スト云フ下無シ、

○王ノ前ニ出ル時ハ、淺淡<sup>ヒシクシテ</sup>服ト唱フル、常ノ冠帶ノ服色ヲ、薄淺<sup>ハツヒシ</sup>黄ニ深ノテ着シ、紗帽<sup>サボウ</sup>ハ常品ヲ用ヒ、帶ハ常ノ角ノ帶ト違ヒ、飾ノ無キ品ヲ用ユルヨシ、

○外官ヲ勤メタル人喪ニ逢タル時ハ、官ヲ去ルヲアリ、其節ハ印信ノ類ヲ、手筋ノ官ヘ預ケルヨシ、譬ヘバ釜山僉使急病ノ節ハ、水營ノ虞候<sup>グウ</sup>ヨリ、之ヲ兼スル如シ、三年ノ内ハ、喪服ヲ着シ、

引入リ官ヲ辞スルヨシ

祭

○大祀ヲ執行スル所ハ、社稷ノ祭壇ニテ、京城ノ内ニアリ、社ハ后土ヲ本トシ、東方ニアリ、稷ハ后稷ヲ本トシ、西ニアリ、仲春仲秋臘月ノ三度ニ祭ルヨシ、奠物ハ大牢牛羊豕各三ツ、籩豆ハ各十二ナリ、奠實ハ十二樂ナリ、尤祭ニヨリ減少スト云

○中祀ハ、風雨水旱ヲ祈ル、壇ハ京城外ノ南ニアリ、又神農氏西陵氏ヲ、季春ニ祭ルヨシ、

○小祀ハ靈星ヲ祭ル、壇ハ京城ノ南ニアリ、立秋後ノ辰ノ日祭ルヨシ、

○老人星秋分馬祖仲春先牧仲夏馬社仲秋馬步仲冬此外多蘇多廟多屬廟多ナトノ祭リ、數多有リ、幣用ノ品ハ、籩豆四尊、實二牲、少牢、鬼神ハ、飯一ツ、羹一ツ、羊豕祭一ツ、

○蘇廟ト云ハ四方ノ鬼神ヲ集タル祭ノヨシ、

○厲壇ト云ハ京城十里外ニ在リ、無縁ノ者ヲ葬リタル所ナリ、春秋ニ祭ヲ行フヨシ、

○宗廟ハ京城ノ内ニアリ、東太室南ニ向フ、庭ノ



東西ニ各廟アリ、西ニ神主ヲ祀リ、東ニ功臣ノ神主ヲ祀ル、凡祀ル日ハ四孟上旬及臘月ノヨシ、

○國ノ大事ハ社稷宗廟ヲ祈リ、其外嶽海名山大川ヲ祈リ、風雷雨水旱惡病蝗虫戰伐等ノトアルハ、其神ヲ祈ルト云

○啓聖祠ハ、文宣王ヲ云廟ハ京城ノ内北ニアリ、大成殿

○關王廟ニアリ、崇禮門ノ外ニ一ツツ宣武祠ト云、祀日アリ、季春、季秋

○關羽大將ヲ四節ニ祭り、京中ハ勿論ナリ、各道處々ニ祭ル、中ニ靈ナルハ、全羅道全州ノ關公ノヨシ、大道ノ傍ニ堂アリ、旅人ハ錢ヲ投シ拜ラナス、

○京中ノ關王ノ廟ハ、終日人ノ絶間ナク、或ハ子ナキ者、齋戒ヲイタシ、祈誓ヲナシ、又ハ身ノ大事大望ノ事ヲモ、祈禱スト云

○祭禮ノ式、社稷宗廟ニハ國王躬親テ之ヲ行テ、香ヲ焚ヒテ四拜ス、宰相初メ供物ヲ捧ゲ、樂舞ヲ奏シ、祭文ヲ誦スルヨシ、

○諸道州郡ノ水旱ノ祈リ、郡守縣令自ラ行フヨシ、

○諸州府ヘモ、城外ニ壇有リ、城隍ヲ祭ト云、一年ニ三度ツ、ノヨシ、

○宋氏婦人ノ祭アリ、正月十五日壇ニ於テ祭文ヲ唱ヘ、奠物ヲ壇上ニテ燒弄ツ、

○士庶人病ヲ祈ル時ハ、水濱ニ壇ヲ設ケ、巫女ヲ頼ミ、牛豕魚肉ヲ備ヘ、木綿又ハ紙類ヲ奠シテ祈ル、巫女其人ノ衣類ヲ、竿ニ結ヒ四方ヲ招キ、又其着物ヲ打擲シテ其罪ヲコラシムル体ヲ

ナシ、又錚ヲ鳴シ、種々ノ事ヲ語り、天ヲ祈リ衣類紙等ヲ、燃シ、或ハ口ニ大ナル金ナ掾ヲクハヘ、濁酒ヲ濺キ、活タル鷄ヲ呼ビ、是ヲ吞マセ、掾ヲ口ニツギ、手ヲ放シ、其場ヲ、ハセ廻リ、狂人ノ如クニテ、肉汁ヲ投ゲ、始終言語絶間ナシト云、  
○雨ヲ祈リ、漁ヲ禱ル時ハ、一邑一村集リ、其地名山海濱ニ於テ祈ルト云  
○五倫ノ中ニ、重病ヲウクル時ハ、夜半ニ五七度數ヲ定メ、冷水ヲ以テ、身ヲス、ギ、星ヲ祈ル、精神ヲ懲シ、自ラ祈ル有リ、

○船ノ祭ハ、船頭自身ニ祭リ酒肉ヲ奠テズト云  
 ○送神ソウジント云フアリ、痘瘡神トウソウジンヲ送ルニテヤクヲ  
 終レバ、親類ハ勿論、近隣ソノ外、親舊ノ者ヲ呼  
 ビ、盛宴ヲ張リ、痘瘡神ニ、親ク膳部ヲソナヘ、藁  
 ニテ馬ヲ二三尺ニ作り膳部ノ品ヲ負セ、野路  
 ヘ捨ルト云、又痘瘡人ノ門ニハ、繩ヲハリ、青松  
 葉ヲ挾ミ、用事有之者ハ、外ヨリ案内ヲ乞テ、其  
 家ノ者ヲ喚出シ、通用イタスヨシ、痘瘡神ハ、男  
 女老少共ニ穢ヲ忌ト云、

雜誌

○國王ノ世子誕生ノ時ハ、大赦ヲ行フヨシ、誕生  
 ハ國民共ニ分限ニ過タル、德談イワイヲシ、宴ヲナス  
 ヨシ、誕日ハ毎歲祝スルヨシ、  
 ○國ニ大慶オホイワイアル時ハ、京中及入道ノ老人ヘ、宴ヲ  
 下サル、官位ノ人ハ、七十以上、衰人ハ八十以上  
 ノヨシ、  
 ○他國ヘ使臣ヲ遣ス時ハ、膳部ヲ下サルヨシ、親  
 戚朋友類ル別離ヲ惜ムヨシ、  
 ○官廳ハ、棟上ノ日ヲ、生日ト云ヒ、廳ヲツトメル  
 人、酒肴ヲ設ケ、毎年祝スルヨシ、

○京官相逢時ハ、一階進ミタル人ナレバ、其ノ入前ニ至リテ再拜ス、上官ハ拜ニ應ゼズ、下官ハ並ニ禮ニ應ス、道上ニテ相逢フ時ハ、下官ハ馬ヨリ下リ、上官ハ馬上ノ儘ニテ黙禮ス、同品ハ馬上ニテ相揖ス、他官右ニ同ジト云、

○諸官會座ノ節、正一品北、從一品東、正二品西、三品南、ニ座ス、正一品無キ時ハ、從一品北ニ坐シ、餘ハ順ノ通ニ坐スト云、武官會坐、右ニ同ジ、文武同會ノ時ハ、同品ナレハ、武官ハ一品ヲ下リテ坐スト云、

○迎送ハ、一品ナレバ、大門ノ外迄テ、迎ヒ送リラ為ス、二品ハ中門ノ外、三四品ハ中門ノ内、五品六品以下ハ階下迄ナルヨシ、

○賓主同品ノ時ハ、賓ハ東ニ向ヒ、主人ハ西ニ向ヒ、衆賓ハ南ニ向ヒ、東ノ方主人ノ上ニ近ク坐シ、衆人北ニ向ヒ坐スト云、主人門外ニ出迎、讓ヲ互ニナシテ内ニ入り、衆賓是ニ從テ、帝ニ至リ、互ニ再拜ヲナシ、衆賓ハ進テ禮ヲナシ、帝ニ就キ奏樂ヲハジメ、酒ヲ酌、或ハ三獻、又五獻ニ定ト云、

○堂上ハ官交椅ニ坐シ、三品以下ハ繩床如ク乱ナノ

ルモ

○倚子ヲ設ク、賓ヲモテナス、一ハ他國ノ使臣ヲ接待スルノ外ニハ、稀ナルトニテ、州縣ニモ、養老宴、郷飲酒儀、郷射儀ナド、云、表向ニ拘リタル大禮ノ宴ニハ、時々用ユルヨシ、

○郷飲ハ豊年ツゞキ、國內安穩ナル時ニ、開城府諸道ノ州縣ニ飲食ヲ下サルト有リ、郷射儀ハ、開城府諸道州郡縣へ、毎年三月三日ニ弓ヲ射テ、賭ヲイタシ、試テ勸ムヨシ、

○民間ニ金銀ヲ儲フトテ許サス、粟布ヲ積ム者ノ富家トス、

○三品以上ニアラザレバ、綺繡ヲ身ニ飾ルヲ得ズ、小官ハ細布ヲ服ス、町人百姓ハ白キ筒袖ニ白キ股引キヲ着ス、

○學校北ヲ避ク、又敢テ名イハズ、朝廷ヲ尊ンデナリ、

○國ニ八十ノ老アレバ、男女共ニ、燕ヲ賜テ、其恩ヲ覃ス、毎歲季秋ニ、王ハ八十ノ老人ヲ殿ニ燕シ、妃ハ八十ノ婦人ヲ宮ニ燕ズ、

○國俗ニ喪ハ必三年ナリ、且猶ヲ墓ニ廬ス、奴僕ニハ百日ノ喪ヲ許ス、若三年ヲ願フ者アレハ之ヲ聽ス、

○京中ニ歸厚ノ署ヲ設ケ、棺槨ヲ儲ヘ、以テ貧窮ヲ濟フ、棺槨ヲ用エク

○婚媾ハ媒妁ヲ謹ム、再醮スル者ハ多學ト雖モ、士流ニ齒スルヲ得ズ、女子モ再嫁ヲ恥ヅ、再嫁シテ、産ム所ノ子、并ニ失行婦女ノ子ハ、士流ニ入レ仕版ニ登ルヲ許サス、

○祭ハ皆家廟ヲ立ツ、大夫ハ三代ヲ祭リ、士庶ハ

祖考ニ止ル、是皆箕子ノ流風善政ト云、

○秋九月ヨリ、春二月ニ至ルマデハ、二祭ヲ喫ス、三月ヨリ八月マデハ三飯、

○佐田輩ヨリ朝鮮堂上三位某へ問テ曰ク禮樂制度其他文物ハ、更ニ貴國ニ於テ制作スルヤ、又ハ文公家禮等ニ依ルヤ答テ曰ク盡ク周禮ニ因ル、

○酒ハ日本民間ニ行ル、濁酒ト異ナラズ甘キ品ハ、總テ蜜制ナリ、試ニ問フ何ソ外國ヨリ清酒砂糖ヲ輸入セザルヤ、又何ソ更ニ製造セザ

ルヤト云へバ、奢ニ長スト答フ、

○酒ノ極上ヲ、一年酒ト稱ス、其外ニ梨花酒ト云アリ又方文酒ト云アリ、一年酒ハ、土中ニ造リ込ミ、寒中ヨリ五ヶ月目ニ、堀リ出シテ、用ユルヨシ、

○燒酎ノ極上ハ、島紅露ト云、成丈テ氣強キ品ヲ好ムナリ、三度モ煎ジ詰メ蜜ノ如クナスヨシ、平安道ノ名物ニテ、監司歸京ノ節、土産等ニ用ユルヨシ、

○金山銀山頗多シ、國詠ヲ損スト云テ之ヲ掘ラ

ズ、戍兵ヲ遣シ、之ヲ守ラシム、各所派レ出ヅ所ノ金沙銀沙ヲ製シテ、掉金掉銀ニノベ、之ヲ用ユル時ハ、之ヲ削テ、其分量ヲハカリ、會計スルヨシ、

○朝鮮太祖李成桂ノ誓文ニ曰ク、西ニ禮ヲ失ハズ、東ニ信ヲ失ハズ、此ノニケ所へ、敬テ交レバ、國ヲ損セズ、萬々世マデ、保ツベシ、西ハ支那ヲ指シ、東ハ日本ヲ云、

○太祖即位元年ヨリ二百年目ニ、信ヲ失ヒ、豊臣氏ニ征伐セラレ、國ヲ損シタリト云、

○征伐ノ前、足利氏ノ時ヨリ、京畿道ノ王城ニ近  
キ所へ、日本館ヲ築カシメ、又日本人ヲシテ、八  
道ヲ通行セシメタリシガ、征伐後ハ、深ク關ヲ  
鎖シ、慶尚道ノ釜山浦草梁項へ、二万坪ノ地所  
ヲ、日本へ貸シ與へ、關門ヲ二重ニ、取建テ、兵ヲ  
以テ戍ル、偶々日本人朝鮮ノ海岸江華府ノ如  
キ處へ漂着スレバ、陸ニ上ゲズ、直ニ船ヨリ草  
梁項へ護送シ、同所出張ノ日本人へ引渡ス、  
○關門左右ノ柱へ題辭アリ、風雲駕海虎豹守關  
ト、大書セリ、又漁民ノ木戸へ、種々ノ題語詩句

ヲ標札ノ如クシテ、張付ケリ、問ニハ、戸ノ左へ  
堯之日月、右へ舜之乾坤ト題セリ、  
○借家ト云フ無之、尤困究ノ者ハ、家引當テ、金  
二三十兩ヲ借り、何年ニシテ、家屋鋪渡シ申バ  
クト云、約束ハ、時々有ルヨシ、返金出來兼テ、家  
引渡シノ時ハ、漢城府ニ届ルヨシ、邑村ノ小家  
ハ、拾兩内外ニテ、賣買スルヨシ、  
○馬牧場十三所アリ、監牧官ノ支配ニテ、牧毎ニ、  
馬番ヲ置キ、春秋ニ數ノ報狀ヲ、ナス、馬ヲ擇ビ  
取ル時ハ、監牧官并支配ノ人夫、數十人連レ越



スヨシ、朝鮮ノ土地、馬ニ應ゼスト云、全羅道ノ内濟州ノ馬ハ、漸宜シト云、

○咸鏡道ニ於テ、春秋兩度ニ、北京ト市ヲ為スヨシ、其セツ、諸品交易ハ、勿論ナリ、朝鮮ヨリ牛ヲ曳出シ、北京ノ方ヨリ馬ヲ牽來リテ、交易イタス、北京ヨリ牝馬ヲ牽來ル、朝鮮ヨリハ牝牛ヲ貿易セスト云、

○上馬一匹價七八十貫、中馬一匹十貫以上、下馬一匹貳貫以上ナルヨシ、

○朝鮮ハ牛ノ餘計ニ生スル土地ナリ、州府營ニ

テ一日ニ四頭、京中ニテ六十頭、郡縣ノ地、一月ニ四十頭内外、又此外ニ北土ノ交易ニ、年中ニ五六千頭ヲ出ス、又各鎮ニテ、月ニ四五匹ヲ屠ルヨシ、

○百姓ヨリ買上ル大牛一匹、代價凡拾兩内外ノ由、牛ヲ殺スモノヲ、白丁ト云、指圖ハ、監官ヨリ掌リ、官家ノ數ヨリ外ニハ、殺スト相成ラサルヨシ、若シ竊ニ殺スモノアレバ、罰金拾兩ヲ出スノ律アルヨシ、

○虎ハ咸鏡道江原道ニ頗ル多シト云、慶尚道梁

山密陽ノ邊モ、大山多ク、秋ノコロハ、専ラ虎狩ヲ為スヨシ、

○虎狩ヲスル時ハ、砲手三人、鎗手三人、一組ニナリ、鉦ヲナラシテ、追ヒ出スヨシ、大狩ノセツハ、守令ノ輩モ出ヅ、一ケ年中、何度ト極リタルノ無ク、虎ノ入ヲ害シタル事アレバ、大狩ヲ催スヨシ、平常ハ獵師一人ニテモ、獵スルノ有ルヨシ、

○大虎一頭ノ賞ハ、四拾兩、中虎ハ二十兩、小虎ハ拾兩ノヨシ、賞ハ官家ノ狩ニテモ、自分ノ狩ニ

テモ、獲タル時ハ、下サル、由、皮肉モ其者ニ下サル、又入ヲ害シタル猛虎ヲ、獲タル者へハ、賞ヲ受ケタル上ニ、官品ヲモ下サルヨシ、又一人ニテ、小虎ニテモ、頭ノ數ヲ打取タル者へハ、官品ハ勿論、各別一賞典ヲ蒙ルヨシ、

○虎ノ入ヲ噬殺スル時々之レ有リ、然レ其邊ニ殺シテ之ヲ食フモノニアラズ、人ノ居ラザル所ニ、持テ行キテ、其精神ヲ奪フテ、而後ニ食ヒ掛ルヨシ、夫レ故ニ虎ニトラレタル者ハ、狂入ノ如クナリテ、手ヲ拍テ笑フヨシ、

○虎常ニ深山ニ住ミ、諸獸ヲ食フ、ガ虎能ク人ヲ食フト云、冬至ニイタリテ、ビ孳尾ス、五六ヶ月ニシテ、子ヲ生ミ、一腹ニ三匹モ生ズト云、深山ノ岩間ニ産ミ置キテ、母虎食ヲ需ネントシテ、鵝ワニ取ラレ、又ハ獲ト云、大猫狸ノ獸ニ、トラルハ、ヨシ、

○虎ノ畏レルハ、夜分ニ火ヲ畏ルハ、ニヨリ、夜道ハ炬松ヲ絶サズト云、又酒ニ酔タル者ヲ嫌キフト云、又其年ノ氣候ニテ、余計ニ出ルヲ有リ、其年ハ必ず、悪病流行スルカ、又ハ凶年カト、老人

ナド申傳ルヨシ、

○豹ハ虎ニ同ジト雖、ヒ跡細ク、虎ノ如ク、害ヲナサズ、豹熊山猪ノ類ハ、成鏡道ノ内、最多シト云、獵師狩取レバ、獸ノ大小ニヨリ、相當ノ直ヲ以テ、官家ヨリ買上ニナリ、官家入用ナケレバ、相對賣買イタスヨシ、

○獐モ山ニ多シ、鹿ハ至テ稀ナリ、

○三年ノ喪中ニ、生レタル者ヲ、僧トナスヨシ、又貧家ノ末子、官婢ノ子、何レカ譯テ有ル者ヲ、僧ニナシ、兩班ノ子孫ハ、僧ニナル人、至テ稀ナリ、

幼少ヨリ僧ニナル者モ有リ、中年ニテ僧トナルヲ遷俗ト云フアリ、

○山伏ト云者ハ、無ケレバ、道士ト云者アリ、大槩山伏ニ似寄タルヨシ、又巫男巫女ノ類アリ、

○國中ニ、傾城ハ無之、尤七八十年前、京幾、道利川ノ内ドバリト云所ハ、一時傾城樓ヲ設ケタリ、

此ノ村、家數百余戸アリ、半ハ賣女ヲ置キ酒者ヲ商ヒ、一村ヲ遊所ニ、致シタリ遊女ノ價、一夜

百銅ヨリ五百銅マデ有ルヨシ、近來ハ停止セラレタリ、今ハ京中入込ノ旅人、徒然ヲ凌グ時

ハ、大家ノ使ヒ女、又ハ貧家ノ處女寡婦或ハ女醫ヲ思ヒカクニ、呼ビ寄セルト云、

○小見ト云者アリ、盲人ノ事ニテ、專ラ占筮ヲ為シテ、世ヲ渡ルヨシ、

○兩班ノ夫人ハ云ニ及バズ、中分ノ人ニテモ、我妻ヲ酒宴ノ席ニ出ス事無ク、妾ハ親友ノ席ニ出スコトアリ、

○八道居民、百五十五万三百七十四戸、

○八道田、二百二十五万四千九百十結、

○一結ノ年租ハ米五丸、大豆七丸ト云、

但シ一九ハ日本升ニシテ、三升五合ナリ、

○十束ヲ一負ト云、百負ヲ一結ト云、

○八道高凡一千一百九十万六千百石、

朝鮮聞見錄卷之上終

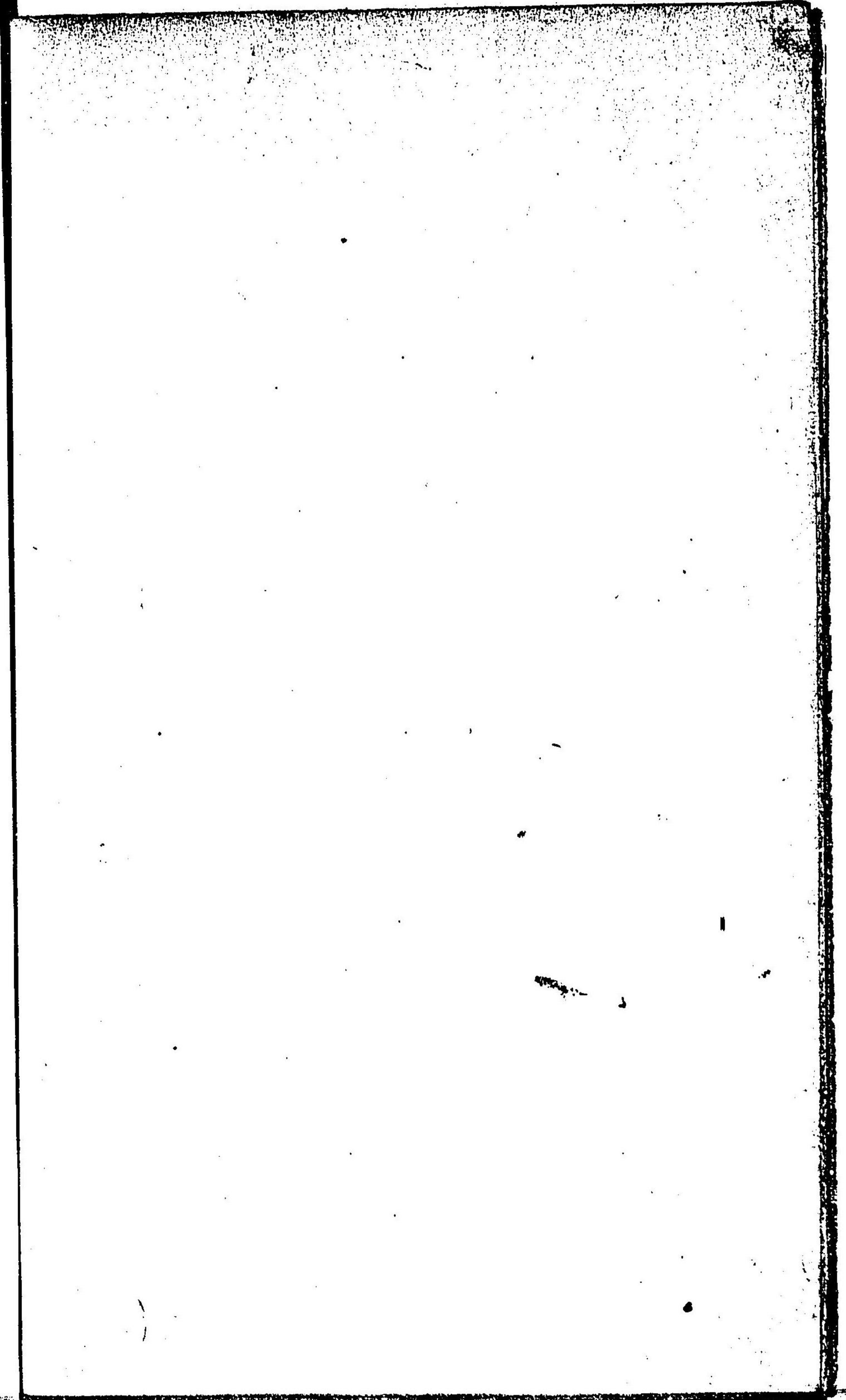
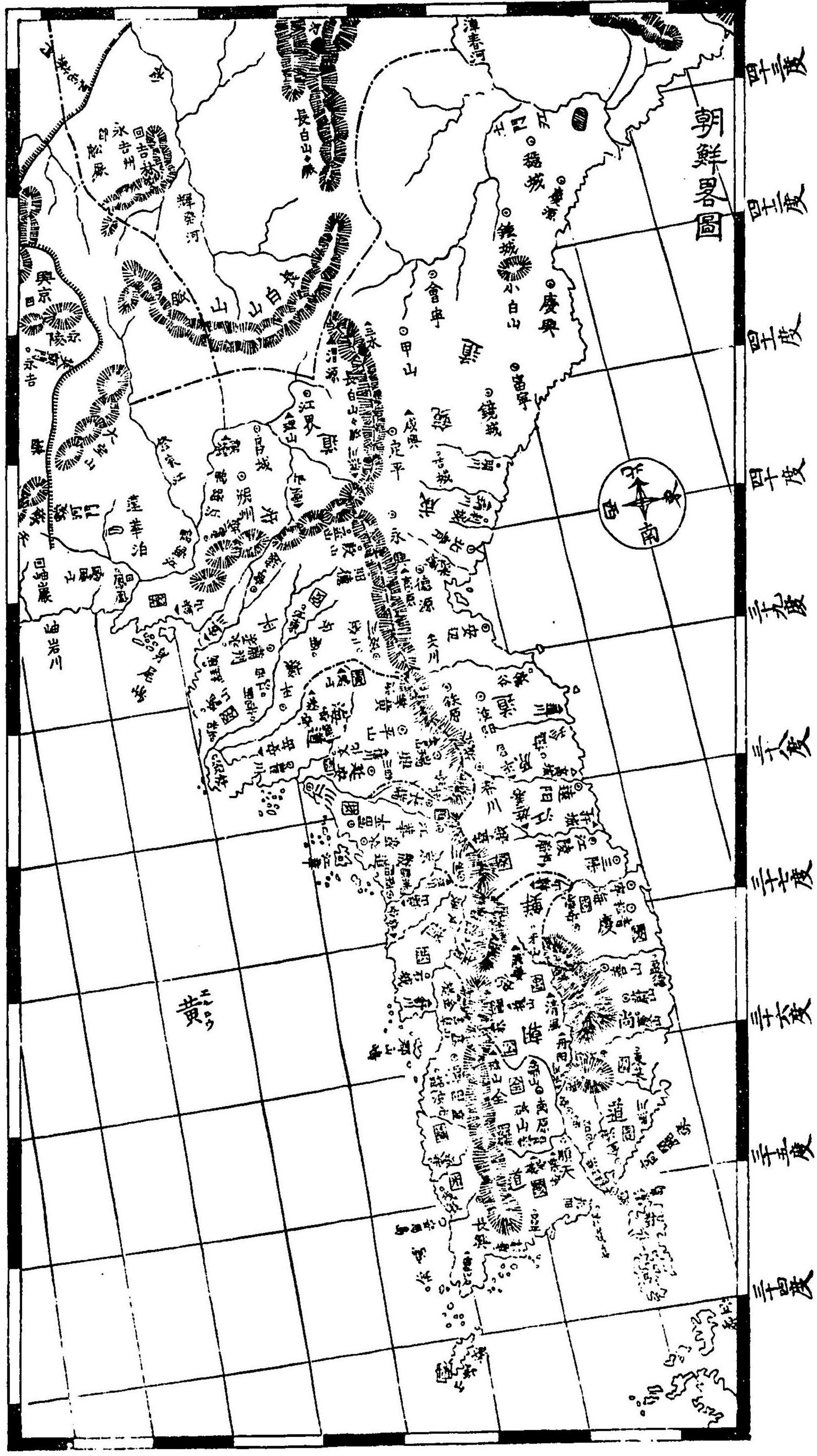
朝鮮聞見錄

佐田白茅輯

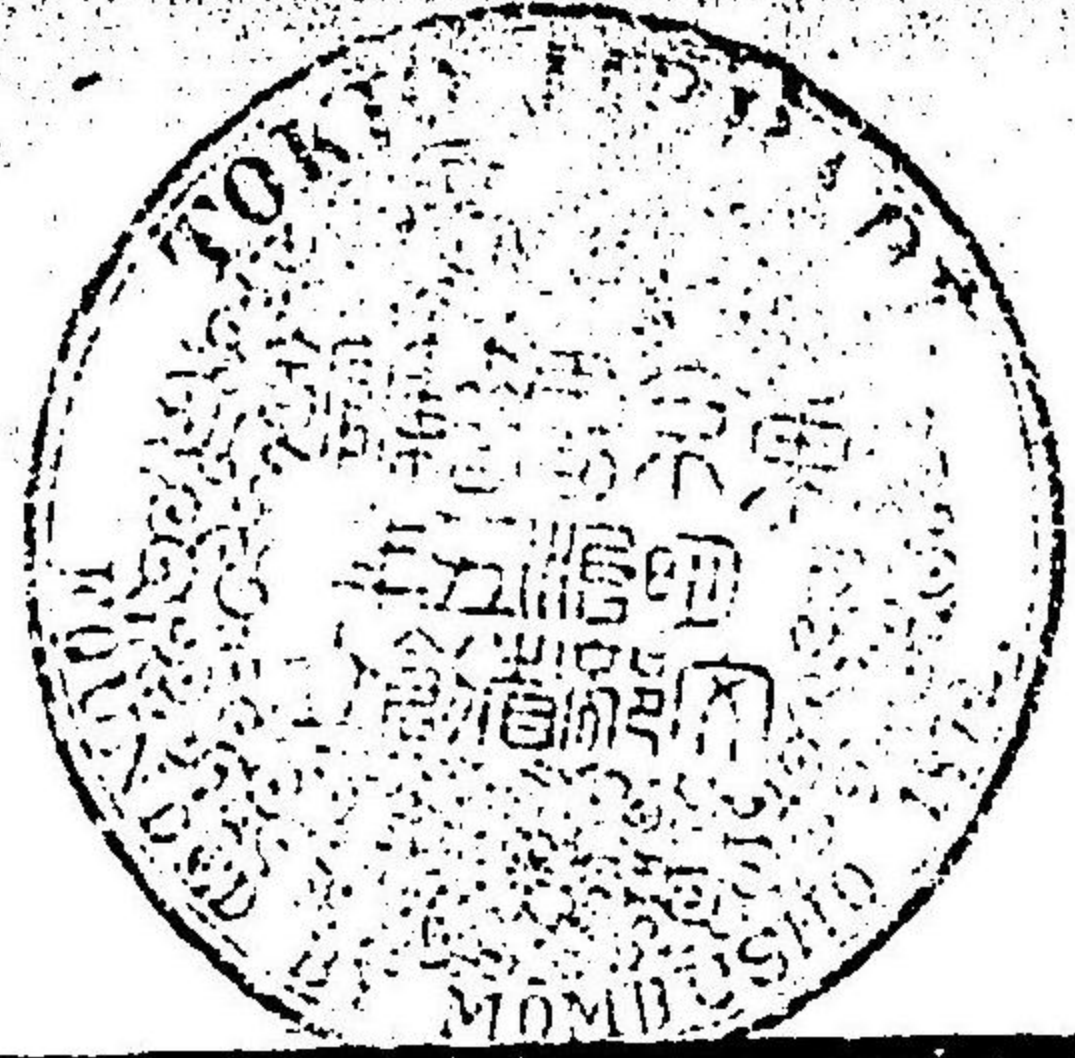
下

東 京 圖 書 館				
二冊	一四号	一架	三函	屬類

山田  
三  
二



東京府  
圖書印



朝鮮聞見録卷之下

明治三三圖書寮交付

武備

佐田白茅纂輯

○京畿道十城 共王城 一邑城 一地 邑城 中 八 平 城

○忠清道十三城 ○鎮城一

○慶尚道十五城 ○邑城三十 ○鎮城十

○全羅道十一城 ○鎮城十八

○黃海道七城 ○邑城四 ○鎮城二

○江原道 ○邑城四 ○鎮城一

○平安道二十四城 ○邑城九 ○鎮城七

朝鮮聞見録



○朔州ハ土地廣大ナリ、北京第一ノ要害トナス、此地ニ城六ツアリ、鴨綠江ノ邊ニ行城ト云アリ、

○咸鏡道ハ城○邑城十四○堡城四○鎮城十五

○右城大低石築ナリ、間ニハ土築アリ、本城ハ多ク山ヲ受ケ、海上ノ城モアリ、本城ニハ將臺アリ、高ク築キ上ケ、四方ヲ大觀ス、又牛馬糞ト云テ城外ニ一ノ構ヘアリ、

○避乱ノ地アリ、南ヨリ乱起ル時ハ、先ヅ江華ノ島ニ避ケ、或ハ平安道義州ノ内大蝦山ニ避ケ、

北ヨリ乱起ル時ハ、先ヅ廣州ノ城ニ避ケ、或ハ全羅道茂朱ノ内赤裳山ニ避ケ、

○兩都ト云フハ、開城府ト江華府ヲ云フ、共ニ留主官ヲ置ク、開城府ニハ武備アリ、古ヘ王都ナリ、今其跡ヲ護ル、土地廣ク、富メル商人多シ、諸道ニ商業ニ派出ス、王城ヨリ十五里ナリ、(日本里數)直ス以江華府ハ周リ十二里余、此地武備アリ、鼎足山ヘ城アリ、王城ヨリ十一里ナリ、此府ヨリ魚類ヲ輸出スルヨシ、

○兩漢トハ、南北ニアル、兩漢山城ヲ云ナリ、京城

ヨリ三里北ノ揚州ニ在ルヲ、北漢山城ト云、城  
中三軍ヲ備ス、此城ノ東南西ニハ、大江流レテ、  
暗礁多シ、北方第一之要所ナリ、京城ヨリ三里  
南ノ廣州ニ在ルヲ、南漢山城ト云、此城亦三軍  
ノ備アリ、中ニ漢江廻リテ、天險ヲ為ス、

○烽燧所ハ、京城ノ内、木覓山ニアリ、火ヲ揚グ信  
ヲ諸道ヘ通ス、咸鏡道ヨリ江原道ニ通シ、慶尚  
道全羅道ハ忠清道ニ通シ、平安道ハ黃海道ニ  
通シ、何レモ、木覓山ニ至リ、部將ヨリ、兵曹ニ告  
ルヨシ、夜ハ火ヲ揚グ、晝ハ烟ヲ揚グ、平安ヲ報

ズルニハ、火ヲ揚グル一度、變ヲ知ラセルニハ、  
火ヲ揚グル二度、大變ヲ告グルニハ、火ヲ揚グ  
ル三度ナリ、

○四道咸鏡平安ノ戰船、百二十七隻、○兵船、百二  
十七隻、○私號船、二百五十六隻、○船將一名、炮  
手廿四名、戰官射夫十五名、官軍船直一名、船用達  
格軍八十名、水夫云夫

○練兵ハ、一月ニ三度ツ、五軍ノ内ヲ循環ス、國  
王時々出張ス、一營ノ伍軍ヲ以テ、カク駈引ヲ習練  
イタシ、或ハ陣ノ敷ヤウ、又ハ旗ヲ以テ軍令ヲ

イタシ、或ハ弓鏡砲ヲ故チ、或ハ馬ヲ騎ス、練兵不熟ノモノニハ、痛ク説諭ス、而テ之ヲ用ヒザレバ、重ク杖罪ヲ加ス、練兵ノ人數ハ、凡五千入ヅ、ハノヨシ  
○陣法号令ノ下ハ、兵書指南ト顔レタル書籍ニ出ヅ、

刑罰

○逆賊ヲ刑ニ行フ時ハ、牛ヲ以テ、引キ裂カセルヨシ、宰相大臣ノ死刑ヲ犯シタル者ハ、其宅ニ於テ毒ヲ吞セテ殺シ、刑ニハ行ハザルヨシ

○死刑ノ者ハ、科ニ依リテハ、京中ノ市ニ於テ斬ル下有レ氏、多クハ西小門外人斬場一テ斬ルヨシ、  
○獄ニ入ル、飲食ハ罪人ノ親類ヨリ送ルヨシ、  
○監司ノ輩ハ一道ノ人命ヲ自由ニ致ス權ハ許スト、雖氏多ク啓文ノ上ニテ、死罪ヲ行フヨシ、  
覆啓トテ、事ノ起リテ、再ビ吟味スル下アリ、尤至急ナル時ハ、先ヅ斬テ、後チニ啓スル下モ有リ、大抵死罪ハ、秋分後九月十月ノ内ニ行ス、  
○入テ斬ル者ヲ白丁ト云日本ノ昔シ穢多ト名

ツケタル類ナルヨシ、全体死刑ヲ行フハ至  
テ掃ナルヲニテ國中一ケ年ニ、一二入ニ過ギ  
ザルヨシ、又梟首ノ刑ハアレド、磔ヲ行フタル  
ハ、無之ヨシ、

○斬罪ニ行フ時、罪人ノ面へ、白粉ヲ塗ル耳ニ令  
箭ヲ指シ斬トキ炮ヲ三タビ發シテ斬ト云フ、  
○死刑ニ定ラザルモノハ、モトバリニ箭ヲサシ、  
炮ヲ放ツ、三度ニ及ブトキハ、斬罪ニ極ルニ  
度目迄ハ、助ケラル、ト云フ、

○流刑ハ、科ニ依リ、絶島或ハ名モナキ小島へ流

ス、全羅道ノ内、尤モ多シト云、初ヨリ何年ト云  
フ限り無久遠近ヲ以テ、罪ノ輕重ヲ定メ、折テ  
免サル、ヨシ、又トコロ拂ヒモ有ルヨシ

山川

○白頭山ヲ第一ノ高山トス、山ノ西南ヨリ眺望  
スレバ、此山ハ朝鮮國ヲ懷ニメ、生ズル形アリ、  
第二ヲ全羅道濟州ノ漢拏山トス、此ノ山ノ北  
ハ、白頭山ニ應ジ、兩山内ヲタモテ、外ヲ防ク勢  
アリ、此兩山ヲ國ノ大本トナス、白頭山高サ日  
本ノ二里余アリ、山ノ絶頂ニ、白岩アリ、暑中ニ

モ積雪アル如シ尤九月頃ヨリ、三月頃マデハ積雪之レアリ山ノ足ハ三里バカリ廻ルト云、其外慶尚道ニ島嶺山アリ、登リ凡二里ナルヨシ、朝鮮ハ山國ニテ、三里四方ノ平田ハ之レ無キナリ、

○白頭山ヨリ流ル、水ハ鴨綠江、黑竜江、豆滿江ヘ別レ落ツルヨシ、

○山景ノ第一等ハ、江原道通川ノ内ニアル、金剛山ナリ、此山ノ内ニ、八洞アリ、岩ノ形々、佛体ニ似テ、谷水處々ニ流レ、風景他ニ勝ル、

○八洞ハ、長安寺、内圓通、靈源洞、萬瀑洞、普徳屈、羽化洞、百花洞、般若洞、

○右洞ノ中ニ、釋迦峯、觀音峯、地藏峯ト云類之レアリ、艸菴處々ニ有リ、又靈源洞ニ白馬峯アリ、白馬ニ人ノ乗タル如ク、明ニ見ユ、其外罪人峯、地獄門ト云所アリ、般若菴洞ニ鳥啄泉アリ、

○王駕ハ百里ヲ不出ト雖、世祖此金剛山ニ詣リ、佛地ノ尊キヲ見テ、法体イタルヨシ、

○關東ノ八景ハ、江原道ノ内ニアリ、左ノ如シ、蔚珍ノ來陽亭ハ、海上ニアリ、前ニ名島アリ、又

日出ノ景尤妙ナリ

○平海ノ月先亭ハ、前ニ小島數多アリ月ノ上ル

トキハ、島々浮立ツ模様アリ、

○三陟ノ竹雪樓ハ、樓ノ前ニ、九谷ヨリ流レ落チ、

岩ヲ廻グリテ流ル、實ニ奇觀ナリ、

○江陵ノ定包臺ハ、樹木岩ニソビヘ、春霧ノ中ニ、

細雨ヲソ、ギタル景ヲ稱ス、

○襄陽ノ落山臺ハ、臺ノ下ヲ流ル、水アリ、夕陽

ノ景ヲ稱ス、

○杆城ノ青間亭ハ、谷ソビヘ、一筋ノ流水ヲ見通

シ、水溜ニハ浮島アリ

○高城ノ三日浦ハ、春ハ日ノ出、秋ハ月ノ出、漁船

ノ往來ノ光景ヲ稱ス、

○通川ノ籠石亭ハ、岩ノソビヘタル處へ種々樹

木ヲ生ジタル景ヲ稱ス、

○文人墨客、詩ヲ作り、文ヲ賦シ、遊覽スル、春秋

ダユルナシト云

○平安道平壤ノ内ニ、大洞ト云處ハ、春秋ニ樓船

ヲ泛ヘ、種々ノ樂ミ有ル名所ト云、

○漢江ノ内、利川ノ前ハ、京畿江原忠清ノ川ヨリ

水下リ、此所ニテ會集ス、潮ノ満干ニヨリ、風景宜シキヨシ、

○潮溪ト云所ハ、京城ヨリ一里バカリ北ヘ往キ、瀑布有リ、高サ三文バカリニテ、風景宜シキ所ナレド、滝ノ近邊平ナラズ、亭子ヲ設ル處之レ無ク、川底森ノ下ニ、席ヲ設ク、春秋ニ遊人、アマ夕河邊ニ遊ンデ、飲食ス、此處ニ茶店ナケレバ何モ飲食ヲ持コスヨシ、

○鴨綠江ハ、白頭山ノ裾ヨリ、九十里計、西南ノ方ヘ流レ落ツ、平常ハ三又ノ江ニシテ、船渡シア

リ、大水ノ節ハ合テ一大江トナル、全体ニ水勢ハ穩ナル方ニテ、川ノ界ヒヨリ、昌城邊マデハ、水勢盛ナルヨシナレド、大ナル谷川トナリテ、朔州義州ニ落チテ、二百歩バカリノ江ト成ルヨシ、

○江ノ界ハ、京ヲ距ル百四十里、昌城ハ百十里バカリ、江界ニハ府使ヲ置キ、女真ノ交リ有リ、女真ハ韃靼ノ内ニテ、春秋ニ市ヲナシ、兩國産物ヲ持寄リ、交易ヲ為スヨシ、

○女真ノトテ、胡人ト云ヒ、胡地ト云ス、兩國ノ詞

ハ少々通ズルアリ、白頭山其外朝鮮ノ境内ニ  
入込ミテ、蔽ナドヲ採ルヨシ、朝鮮人之ヲ禁ズ  
レバ、忽チ散ズ、時ニヨリテ、争鬪ス、故ニ北京ヨ  
リ女真へ越境ノ一ヲ毎々禁ズルヨシ、

○朝鮮ト女真トノ境ハ、凡十餘里ナリ、其内ニ空地  
地アリ、朝鮮ニ属スト云、鴨綠江ノ邊ニハ、空地  
何百里ト云モノアルヨシ、

○北岳山ハ、白岳山云、京城ニアリ、此山ノ絶頂ヨリ  
一覽スレバ、京城ヲ周リタル、一流ノ川アリ、山  
水明湄ナルヨシ、其外三角山ト云、絶景モアル

ヨシ、

○京城ノ大川ハ、龍山麻浦ナリ、其外處々大川ア  
リ、孰レモ鴨綠江、漢江、洛來江へ流レ落ルヨシ、  
朝鮮ハ出水ト云へバ、忽チ洪水トナリテ廣ク  
氾濫ス、又忽チ水落テ、永ク擁塞セズ、故ニ水害  
ナシ、平常ハ水少ク、土乾キ、桑土ニ尤モ宜シキ  
ヨシ、諸道往來筋へモ、大ナル橋ハ見當ラズ、川  
ノ深キ所へハ、圮橋石橋等ヲ掛ケリ、二三十間  
モツバキタル板橋ハ之レ無キ由、又江河ノ中  
ニ、洲ノアル所ニハ、漁民住居イタスヨシ、



○洲ニ住スル者ハ、陸ノ公役ニ出デズ、時ニ魚類等ヲ貢スルヨシ、津波ト云フナケレバ、沙汰トテ山汐ノ如クシテ、民家ヲ敗リ人ヲ傷損スルヲアルヨシ、

○昔シハ一里毎ニ、小堆ヲ置キ、三里ニ大堆ヲ置ケリ、今ハ一里毎ニ、張承ト唱ヘテ、何ノ郡ヨリ何ノ村マデ、何里ト、張承ノ標木ニ、刻ミアルヨシ、

○張承トハ、昔シ張承ト云人ガ、其家來ヲ殺シ、妻ヲウバヒ、非道ヲ恣ニ致シタルニ付、國中ニ示

ハシ、為ノニ、小堆ノ上ニ、サラシタルヨシ、依テ堆ハ廢物トナリ、張木ヲ建テ替ヘタルヨシ、

○田ノ為ニ、堤ヲ築ク事ハ、嘗テ之レ無キヨシ、全羅慶尚ノ境ニハ、屢々大澤ヲ設ケ、大旱ノ時、此水ヲ田ニ移スト云、其外八道之内ニ、大澤ハ之レ無キナリ、

戸籍

○戸籍ノ書ハ、其身兄弟ハ勿論ナリ、祖父ヨリ子孫マデヲ、書キ加ヘ、祖父ハ何役、親ハ何役、何道ノ何郡、何某ト書キ、百姓ハ百姓ト書キ、女房ハ

何某ノ娘何氏ト書クヨシ、三年ニ一度ヅ、生死ノ改メ有リ、各所ノ府使郡守監令ヨリ相糺シ、取り調テ、監司ヘ差出入、監司ヨリ都ヘ登ルヨシ、若シ戸籍ニ漏レタルト有レバ死刑ニモ至ルヨシ、戸籍一枚ハ官家ヘ差出シ、一枚ハ官家ノ印ヲ請テ、銘々ノ家ニ藏シ置クヨシ

○傳令札ト云アリ、府使郡主ヨリ、役名ヲ明ニ記シ、焼印ヲ据ヘタル、大札ヲ、官員ヘ渡スヨシ、官負ハ之ヲ皮ノ紐ニ結ビ付ケ、腰ニ佩ビ、其役名ヲ顯スヨシ、上等ノ官員ヘハ、象牙ヲ以テ、拵ヘ

タル札子ヲ、渡スヨシ

○號牌ト云アリ、是ハ百姓ニ至ルマデ、誰レデモ提ル筈ナリ、或ハ漁獵、或ハ旅行ノ折柄、不時ノ事出來ノ節ハ、其所ノ地頭ヨリ、其者ノ地頭ヘ、鈞合致ス為メノ、号牌ナルヨシ、ニテ、十六歳ヨリ七十歳マデハ、提ル筈ノヨシ、右号牌ノ書様ハ、表ニ何村何字何軒目何氏何某竈ト記シ、裏ニ焼印ヲ請ルヨシ

○二品以上ハ、牙牌ナリ、三品以下ハ、角牌ナリ、又醫寺雜科ノ者モ右ニ同シ、雜職士庶人書吏郷

吏ノ者ハ、小木牌ヲ提グ、又人ノ家來ハ、大木牌  
ヲ提ガルヨシ、

○族譜ト云アリ、其人ガ李氏ナレバ、李氏ノ興リ  
ハ、何道ヨリ出ヅ、先祖ハ何人ニテ、何役ヲ勤ム、  
或ハ何ノ代ニハ、庶人トナリ、親ハ何ノ生業ヲ  
致スナド、委シク書記シタルヨシ、

○百姓ノ中ニテモ、先祖ノ筋目、宜キ者ハ、及第<sup>ヤクダイ</sup>  
志シテ、出身致セバ、正三品以上ニモ登リ、筋目  
之レ無キ者モ、出身イタセバ、郡主ヨリ上ヘニ  
昇ル<sup>ト</sup>モアルヨシ、

儲蓄<sup>チヨク</sup>田賦<sup>テンペイ</sup>

○八道田地、搦數貳百四拾壹万一千九百九拾<sup>織</sup>

○八道ノ元帳ニ、八結ニ一夫ヲ置キ、又四結ニモ  
結アルヨシ、

○平安道一道ヲ以テ、支那交際ノ費用ニ備フ、凡  
二万四千兩、

○慶尚道半道ヲ以テ、日本交際ノ費用ニ備フ、凡  
二万四千兩、○慶尚道ハ、平安道ニ比スレバ、一  
倍ノ租税アガルヨシ、故ニ慶尚道半道ハ二万  
四千兩ニテ、平安道ノ一道ニ當ルヨシ、

○慶尚道ノ一道ハ、日本ノ雜費ニイタシタルト云フ、説アルハ、四道ノ戰船人夫、其外通信使譯使等ノ雜費迄、大槩ノ積ヲ立タル説ナリ、又日本ノ備ニ、別將ヲ所々ニ置クニ、慶尚ノ一道ハ、全ク費用ナルヨシ、

○大同米ハ、上納ニナル米ヲ云、○諸道水田旱田等ノ開ケ來ル土地ノ上納ヲ集メテ、諸方ノ邑營ノ入目ニ致スヨシ、

○江原道、年々開地相増スヨシ、開田一結ノ上納六斗ヅ、ト云、

○儲置米チヨナハ各邑營一年中ノ入目ヲ引キ、其餘ヲ儲置ス、各道不時ノ義務ニ用ニ、又乾振ニ出スヨシ、

○京城ニ豊儲倉ト云フ有リ、穀物用心ノ儲ナリ、

○衙祿米ハ、扶持米ナリ、上納米ノ内ヨリ出ス、

○學田アリ成均館四百結、○四學各一結、○州府郷校各七結、○郡縣郷校各五結、

○右學寮ノ雜費ハ全ク官ノ屯田ノ内ヨリ分テ、田地ヲ以テ用費ニ備フ、

○官屯田ノ主鎮廿結、既營兵營水○巨鎮、倉使諸

鎮ノ万地府大都護府、牧、各廿結。○都護府郡、十六結。○縣驛、察訪、各十二結。

○右ハ宗室諸君ノ用ニテ、何レモ州郡鎮ヨリ別段ニ納レルヨシ、尤諸君ヘ田地ヲ以テ、與ヘル  
一之レナシ、

○公田ハ、京畿道利川、黃海道鳳山、

○定税ノ事ハ、各道豊凶災旱ニ遇フ時ハ、其所ノ守令、其實ヲ監司ニ陳ス、監司巡歷シテ、審ニ啓聞ス、敬差官都事ヲ遣シ、出來高ノ穗ヲ見届ケ、又戸曹ヨリ、審ニ見極メ、啓聞ノ上、戸曹ヨリ法

ヲ以テ、税ヲ定ムルヨシ、

○糶モミ一丸ヲ上田ニ蒔ケバ、糶三十九内外ノ出來

穗アリ、白米ニシテ日  
本升五斗内外

○麥一丸ヲ上畠ニ蒔ケハ、租麥四十九内外、白麥  
テ四斗余但シ一丸日  
本升ニシテ、三升五合ト云、

○右年貢上納一丸、蒔ニ舟、白米一丸ト定メ、半ハ米ニテ取立、半ハ錢ニテ、時ノ相場ニシテ納ム、勿論其年ノ豊凶ニ依リテ、違ヒハアレド、凡此積リハ充分ノ出來ヲ云ナリ、其外大豆小豆、蕎麥粟綿麻布十分ノ一ヲ納ム、勿論豊凶ニ依リ、

増減アルヨシ、

○右ノ外ニ會内會外ト云テ有リ、會内ハ監司ヘ其所ヨリ、上納同様ニシテ上納ス、白米一苞ニ付、一九五盃ツ、納ム會外ハ其所ノ府使郡主縣令迄一苞ニ付、一九五盃ツ、納ム、何レモ自分ニ受ケ用ルヨシ、之レニ依テ百姓飢饉ノ節ハ、府使郡主ヨリ、救米ヲ時々出スヨシ、

○百姓一人ニ價布ト云テ、大錢二百十五文ツ、納ム、兄弟五人アレバ五人比ニ納ム、又木綿一匹ツ、納ル所モアリ、

○田地賣買ノ下、田畑共ニ、其處其地ノ間數、并土地ノ上中下ヲ、委ク書記シタル水帳アリ、田主ヘ相渡シ置キ、本帳ニ引合ノ印有リ、賣買ノ節ハ、本主ハ素リ、其村ノ役人押印致シ、相違ナキヲ見届ケ、彼所ヨリ、新ニ印ヲ据ヘ、買主ヘ渡ス、年々觀察使巡歴アルニ付、境目ノ論ハ無ケレドモ、汎ノ論時々有ルヨシ、搦テ水ノ乏キ、土地ニテ少シ早リトナレバ、田ノ水忽チ減却ス、之ニ依リ、自然ト汎ノ論有リ、又少シノ雨ニテ、赤土ノシマリタル所ヘ水ノトマリ出來テ、山田

ニモ水切レザル時アリ

○大典祿科

第一科正一品 中米十五石 總米四十八石  
 正布十四匹 細小麥五石  
 正貨十張

但一々年中四季割ニシテ

第二科從一品 中米十二石 總米四十四石  
 正布十五匹 細小麥九石  
 正貨十張

右同斷

第三科正二品 中米十二石 總米四十八石  
 正布十四匹 細小麥八石  
 正貨八張

第四科從二品 中米廿六石 總米三十七石  
 正布十四匹 細小麥八石  
 正貨八張

第五科正三品 堂上官 中米九石 總米廿四石  
 正布八張 細小麥三石

同五科正三品 中米一十石 總米三十石  
 正布十二匹 細小麥四匹

第六科從三品 中米十石 總米二十七石  
 正布十二匹 細小麥四匹

第七科正四品 中米八石 總米二十四石  
 正布六匹 細小麥六匹  
 正貨六張 黃豆十六石

第八科從四品 同上

第九科正五品 田中米二六石 細糙米二十一石

正布十一張 小麥十五石

第十科從五品 田中米三石 細糙米十八石

正布十張 小麥四石 黃豆九石

第十一科正六品 同上

第十二科從六品 同上

第十三科正七品 田中米三石 糙米十五石 黃豆五石

正布七張 小麥四石

第十四科從七品 同上

第十五科正八品 田中米一石 糙米四石 黃豆四石

正布四張 小麥二石

第十六科從八品 同上

第十七科正九品 糙米八石 黃豆一石

小麥一石

第十八科從九品 同上

右何レモ有職ノ人計、祿科之レ有リ、無職ノ人ハ、祿科之レ無シ、

○正三品堂上官ト分ナアルハ、正三品ノ中ニモ堂下官之レ有リ、堂上トハ通政大夫ヲ云、



○外官府、大都護府使、都護府、各衙祿五十結、郡縣各衙祿四十結、

○八道監司ノ中、所務宜シキハ、平安道ナリ、次ニ慶尚道、全羅道ノ由、八道監司一日ノ宛行白米五斗五升入六十苞ノ由、一年ニ理米凡一万石ナルヨシ、其外一道ヨリ獻上ノ品モ、監司へ納メ、所務ノ積リ細々記シガタシト云、

○俗ニ言傳ルハ、平安道ノ監司ヲ、一年勤ル人ハ三代迄ハ、豊ニ暮スト云、

欽承

○平安道義州ハ清國北京ノ往來ニテ、京城ヨリ

一百十里ナリ、柵門マデハ十一里、山海關マデ

ハ、百二十里余ナリ、北京マデハ、六十一里余、數

ハ日本里數ニヨル前ト同シニ

○京城ヨリ北京マデハ、凡三百里ナリ、道中二十

四日ニシテ、山海關ニ達スルヨシ、其間ニ人家

ナキ所アリ、野宿イタスヨシ、柵門ヨリ山海關

マデハ、鞆鞆ノ地ニテ、海邊ヲ左ニメ、西北ニ向

カツテ登リ、万里ノ長城ノ傍ヲ、通行スルト云、

此山海關ヨリ、北京地内ニ入ル、此關へ一泊シ

テ、北京へ使官ヲ通ズルヨシ、道中往還ノ雜費ハ、朝鮮國ヨリ出セバ、京着ノ日ヨリ、出立ノ日マデハ、北京ヨリ馳走ノヨシ、

○冬至使ハ、宰相之内、又ハ六曹判書ノ輩ヲ、正使ニ遣シ、三使ヲ頭ニシテ、人數凡三百人ノヨシ、

○冬至使ハ、冬至ノ祝詞ヲ以テ、當日出立ス、皇曆使ハ、八月曆ヲ請取リトシテ出立ス、皇曆使ヲ

冬至使ニテ、兼勤スルヲ有リ、一ケ年ニ、兩度ノ使臣ハ、小國ニテ、堪へ難キユヘ、北京ヨリ免サ

レタリ、今ハ譯官ヲ以テ、冬至皇曆兼勤ノヨシ、

此外吉凶アル毎ニ、使者ヲ遣シ、又不時ノ事起レバ、又使ヲ遣スヨシ、總計一ケ年ニ、三四度ハ、使者ヲツカハスヲアリ、北京逗留ノ定日ハ、四十日、往還其外使者嚴裝共、凡日數六ケ月ナルヨシ、

○冬至使、正使ハ定銀五貫目、副使ハ四百五十錢程、此外端物等ヲ下サルヨシ、

○冬至使ノ外ニ、一ノ使者アリ、銀一貫、自余ハ右ニ準ズ、

○謝恩使ハ、冬至使ニ差次キ、重キ使者ガラニテ、

三公ノ内、又ハ宗室ノ内ヨリ遣スヨシ、外ニ進賀使、進香使、告訃使、奏請使、辨誣使アリ、

○使者ハ、何モ六曹ノ判各ヲ遣スヨシ、折節ハ正ニ品宗室ノ人モ遣スヨシ、

○賚咨官ハ、譯使ノ總名ニテ、漂着ノ唐船ヲ送り、其外少事ノ節ニ遣ス、人數三十人バカリノヨシ、

○使者毎ニ、清學漢學、蒙古學ヲ學ブヨシ、倭學ハ、冬至使ニ限ルヨシ、

○北京ヘ、書ヲ遣スヲ奏文ト云北京ノ各ヲ咨文

ト云

烏有先生評ニ曰ク右ノ件々左ノ條々、總テ

今日七年治マデ、確定ナルヨシ、然ルニ昨年治明

年支那ヨリ、日本ノ使節副島氏ヘ、朝鮮國ノ

義ハ、支那ニ於テハ和戰共ニ關ゼズト云ヒ

シハ、支那政府如何ノ論ナルヤ、一日事起ス

ハ、又々大葛藤ヲ生ゼン、

○貢ハ朝鮮國ニ産スル物品、米、細木、虎皮、豹皮、花斑席、苧布、水獺皮、紙類ヲ持チ參ルヨシ、此外双方商賣ノ物品、種々有ルヨシ、

○貢米ハ、北京皇帝ノ食用トナルヨシ、北京帝ハ、北京ノ米品ヲ好マザルヨシニテ、平安道ノ内、宜川郭山兩所ノ米ヲ獻ルヨシ、右貢米ハ、柵門口ニ庫ヲ設ケ置キ、一ケ年分ノ米ヲ持越シ、此庫ニ貯オクヨシ、

○北京ヨリ勅使來ラントスル時ハ、牌文ヲ以テ報知ス、人數凡三十人ナルヨシ、朝鮮ニテハ、義州へ着ノ日ヲ積リ、禮曹判書并譯官堂上堂下共、人數百四五人バカリ、内迎トシテ、義州へ出張ス、宿々郡令ハ道路ヲ守護ス、勅使都ニ入

ル時、國王出テ、迎恩門マデムカヘラル、百官其外、軍門ノ大小將等相隨ヒ、都合三千バカリノ人數ナルヨシ、京中ノ町ヲ、通行スル時ハ、左右ニ樂ヲ奏シ、旌旗ヲ左右前後ニ夥ク列子、何事モ聞ス、見ヘザルヤウニ、仕掛ケルヨシ、且ツ双方共、女人ノ交ヲ絶ツヨシ、

○牌文ト云ハ、高札ノ如ク作ル、急ナル勅使到來ノトキハ、鷹ヲ画キ、不急ノ時ハ、虎ヲ画キテ、示スノミニテ、書ヲ送ラザルヨシ、

○勅使道中ニ清石洞ト云フ險所アリ、三十里ハ

カリ、ツバキタル谷道ニテ、左右ノ山頗ルソビ  
ユ、此ノ道筋ヘハ、人家無之、北方ノ要害ナルヨ  
シ、

○勅使京着ノ翌日、歸國ノトヲ觸レ示ス、其時國  
王親ヲ往キ、令一日逗留有之度旨ヲ陳ジテ、引  
留ルヨシ、其翌日ハ三公ヨリ一日引留メ、又宗  
室ノ衆ヨリ一日引留、又百官ヨリ一日引留、又  
國王ヨリ一日引留メ、都合中五日逗留スト云  
フ、勅使ヘ贈品ハ、人參其外所産ノ品物、并日本  
産物等ヲ進ゼラル、ヨシ、

○引留メ入館、何モ其時々々ノ宴會有之、國王ハ  
勅命ヲ即日ニ承ケル迄ニテ供應ハ朝臣ヨリ  
勤ム、初宴、大宴、別宴、饌宴、アルヨシ、

○國王勅命ヲ承ケシヨリ、朝臣一統列ヲ以テ、勅  
使ヲ拜ス、勅使ハ北京ニテ、五品位イノ入ナル  
ヨシ、

○北京ヨリ、國王ヲ待ツノ禮ハ、兵部尚書ノ位階  
ニ準ズルヨシ、北京人朝鮮ヲサシテ小中華ト  
云、

○勅使京着ノ日、城外一里内外ノ山水風景ヨロ

シキ處ニ於テ、勅使へ馳走之レ有ルヨシ、東山  
へ鷹狩ノ体ヲサシ、西山へ雉子ニヨマフ付ケ、  
舞ヒ立タセルヨシ、其外種々ノ下ヲ山河ノ間  
ニ設ケ、勅使ヲ樂シマシムルヨシ、或ル勅使ヨ  
リ、其雜費ヲ問ヒシトキ、二千兩バカリノ入費  
ト答ヘタリ、勅使右入費ヲ止メサセ、正銀ヲ受  
取タルヨシ、此ノ事終ニ例トナリ來ル處、近來  
此事北京へ聞ヘ、銀ニテ受取テハ、異國へ對シ、  
政道相立ザルニ付、已後右様ノ義、相止メト申  
事ニテ、只今ハ前ノ如ク、種々ノ技ヲ呈スル

之レ無クシテ、雜費ハ纔ニ百兩ナルヨシ、

○勅使道中ニ於テ、サマミクノ一ヲ申掛ケ、詰ル  
處ハ賂ヲ取ル手術ナルヨシ、

○勅使平安道平壤ノ地ニ於テ、官女ノ美ナルヲ  
視テ、手元へ召寄タキ、再三強テ相談ニ付、  
斷然其女ノ首ヲ斬テ、勅使へ差出タルヨシ、是  
レヨリシテ、勅使ノ宴席ニ、女樂ヲ奏スル一之  
レナシ、日本ノ諸送使へハ、相替ラズ、女樂ヲ送  
リ、厚キ接待アリ、

○勅使ハ、上使副使ト云、從事ハ之レナシ、義州マ

テハ馬上ナリ、義州ヨリ轎子ニ乗ル、北京ノ通  
 辨官モ重クアシラウヨシ、義州ヨリ薪炭等ヲ  
 具備スルヨシ、尤使臣ノ衆ハ、蒙古帳ト云モノ  
 ヲ、建テルヨシ、且ツ道中ニテハ眼鏡ヲカケテ、  
 風ヲ凌ギ、塵ヲ掩フヨシ、

○蒙古帳ハ、軍用ノ品ニテ、凡疊ミニ枚幅バカリ  
 ニシテ、矢ノ通ラヌヨクニ、拵ヘタルモノ、由  
 ニテ、下ニハ板ヲシキ、寒氣ヲ凌グヨシ、

○朝鮮人ノ語ニ、北京ノ皇城ハ、廣大ニシテ、九門  
 ヲ入レバ、九層ノ階アリ、其上ニ紅蓋アルヲ、仰

ギ見テ、我々共下ヨリ謹テ再拜スト云、

○又曰ク属國ノ朝貢ハ、或ハ毎歲、或ハ三年目ニ  
 一度、或ハ五年目ニ一度、或ハ十年目ニ一度ノ  
 定則アルヨシ、

○又曰、北京ノ及第ハ、朝鮮ト違ヒ、昇殿筋目等ニ  
 拘ラズ、人才ヲ以テ、高官ニ撰フヨシ、

○又曰、山海關ハ、即チ万里長城ノ門ニテ、平地ニ  
 アリ、高サ凡十丈バカリニテ、上ニ天下第一關  
 ト題セリ、長城ノ塼ハ二尺角バカリノ焼石ニ  
 シテ、其間ヲ白灰ヲ以テ、カタメタルヨシ、上ノ

廣サ騎馬十騎余モ並ブヨシ、又上ニ處々番所アリ、

○又曰、北京人山海關ノ外ニ出テ、賣買等ヲイタスモノアマタ有リ、或ハ四五年ツノ往來札ヲ以テ、出入ヲ嚴重ニ吟味スルヨシ、

○又曰、北京ニテ、朝禮朝貢ノ屬國人ハ、國ノ順序ヲ以テ出ヅル時ハ、朝鮮ハ中項ニ出ヅルナリ、

官制

○堂上ノ官名ハ、知事ナリ、同知ナリ、僉ケ知チナリ、文武共ニ、此ノ名アリ、知事ニモ一品二品ノ品階

アリ、此ノ知事ヲ、尊テ常ニ大監ト云、同知僉知ヲ令監ト云、

○堂下ノ官名ハ、文正ナリ、僉正ナリ、判官ナリ、主簿ボナリ、直長ナリ、奉軍ナリ、參奉ナリ、武員ハハ別將ナリ、先達ナリ、千總ナリ、把總ハナリ、百總ナリ、郎廳ナリ、直長ナリ、哨官シウナリ、

○兩班ハ、文官三百八十九員、武官二百四十二員、監司ハ、正二品ニテ、一道ノ仕置キ人命ヲ司ル、依テ一道ノ王トモ云、大曹判書中ヨリモ、折節シ此ノ職ヲ勤メ、察使ト唱ヘ、又巡使道トモ唱



フルヨシ、

○都事ハ從三品ヨリ、一道ノ目付トナリ、監司ニ不筋ノトアレバ京へ上申スルヨシ、

○留守ハ、從二品、京畿道ノ内開城江華ノ要害ノ城ヲ勤ム、其備へ常ニ之レ有ルヨシ、正二品ノ判書ヨリ勤メルトモ有リ、

○庶尹ハ、從二品平安道ニカギリ之レ有ルヨシ、京ノ境ニテ、別段ノ目付ナルヨシ、

○判官ハ、從三品ニテ、一道ノ上納物品ヲ支配シ、扶持米等ノ大勘定ヲイタスヨシ、

○大都護府ハ、正三品監司ノ次キニテ、重キ僉令有リ、州府ノ中ニテモ、治メ難キ處へ、遣ハスヨシ、

○都護府ハ、正三品從三品之レ有リ、勤所ノ重キハ、正三品ニテ、多ハ從三品ナルヨシ、

○牧使府尹ノ兩官ハ、正三品ナリ、大都護府ヨリ府尹ト云マデハ、何モ使道ト稱ス、

○郡守ハ、正四品以下五六品ノ内ヨリ遣ス、及第ノ砌ニ、郡守又ハ縣令ニ任ズベキ人ヲ、教授ト云、又校理ト名ケテ、一道ニ二三人ツヽ遣ハス

ヨシ、

○縣令縣監兩官ハ、正六品ノ人ヲ遣シ、其内ニ五品ノ人モ、折節ツカハスヨシ、

○察訪サツボウハ、從四品ニテ、驛馬ヲ預リ、宿々傳馬ノ指圖、驛所ノ官夫等ヲ支配スルヨシ、

以上東班○但シ外官ハ、京官ト同品ニテモ、外官ヨリ一階隔ダ、ル様ニ、禮敬ヲツクス

ヨシ、

○統制使トウセイシハ、正二品、海陸ノ總大將ニテ、軍士ノ命ヲ司ル、監司ハ一道ヲ守ルナリ

○統營トウエイヲ大鎮ト云、戸數八千アリ、表向ハ四千戸ノ取立ニテ、残り四千戸ハ内儉ノ如クシテ、統

制使ノ預リナルヨシ、城中ニ廿余洞アリ、城外ニモ廿余洞アリ、又裨將十二名アリト云フ、

○兵馬節度使ハ、正三品、陸地ノ大將ニテ、兵使ト云フ、

○水軍節度使ハ、正三品、海邊ノ大將ニテ、水使ト云フ、

○虞候ハ、從四品、兵水使ノ副將ノヨシ、

○中軍ハ、正五品、統制使ノ如ク重キ所ニ、差添ヘ

軍中ノ盛勢ヲ示スヨシ、

○ 僉使ハ、正三品從三品ニテモ、之ヲ勤ム其勤メ  
所ニヨリテ、一階二階ノ違ヒ有ルヨシ、

○ 萬戶ハ、一鎮ノ大將、正四品ヨリ六品マテ有ル  
ヨシ、

○ 營將ハ、從三品營中ヲ守ルヨシ、

○ 監牧官ハ、從三品、牧ヲ預リ其人夫ヲ支配スル  
ヨシ、

○ 權官ハ、正六品、一村ヲ預リ、萬戶ノ勤ニ同シト  
云フ、

○ 別將品階共ニ、權官ニ同ジ、

以上西班牙○國中文ヲ以治メ武ヲ以助ク、故  
ニ州府之内、武官ノミ守ル處ハ之レ無キト  
云フ、

○ 武官昇階堂上ノ初勤ハ、僉使ヨリ水使兵使侍  
衛ノ勤ヲ為ス、統制使トナリテ、五軍門ノ大將  
ニ昇ル、兵使ノ内ニテ、重キハ北兵使ナリ、

○ 各營束伍三万五千九百八名、但シ八道束伍ノ  
外、京中旗本ノ軍ナリ、

○ 右營ノ内、中樞府ヲ首トス、

○領事一名、判事二名、知事六名、同知八名、僉知八名、經歷一名、都事一名、

○訓練都監、御營廳、禁衛營、總戎廳、守衛廳、此ヲ五軍門ト云、

○營門每ニ、都提調一名、提調一名、大將一名、中軍一名、別將一名、千總五名、把總五名、哨官四十五名、

○五衛都總府ハ、勇士ノ營ニテ、五衛將十二名、護軍八十名、司直六百八名、司猛二百廿八名、司勇六百五名、

○邊城ノ勤ハ、日本体又ハ北京体ノ勤ニテ、何モ二十四朔宛ナリ、其外ハ五六年勤メノ由、

○宰相ノ行列ノ人數ハ、廿四五人、平轎子ニ乘ル、附屬ノ内ニ、重立タル人ハ、家臣一名、中房二名、書記二名ノヨシ、行列ノ中ヲキル者アレバ、罪ヲ申付ク道ヲ行ク者傍ニ跪ク、童子ハ、馬ニ乘リ、行キテモ答メザルヨシ、

○平轎子ノ製ハ、地ヨリ五六寸高く、平地ニ坐シタル如クニシテ、鉄ノ輪ヲ付ケ人ヲ以テ靜ニ曳クヨシ、

○宰相ハ人数一定ナク、凡三十員ホドモ有リ、邸  
ハ城外ニ有リ、在職ノ節ハ、城中ニ住居スルヨ  
シ、全体宰相ト唱ヘルハ、三議政ハ勿論ナリ、領  
事都提調マデヲ云、又無職ニテモ宰相ノ稱号  
有リ、國ノ大事アル時バカリ、出朝スト云、  
○令箭ハ、常ノ矢ヨリ羽大ニシテ、十本ツ、サシ  
タルモノナルヨシ、急用ノ節ハ、書達ニ違アラ  
ズ、關所ヲ通りテ、公用ヲ達スル時ハ、矢ノ根ニ  
令ノ字ヲ銀ニテ、細クホリタル品ヲ示スヨシ、  
○旗品々有リ、五色ヲ以テ、東西南北中ノ五ツニ

分テ、軍令ヲ致スヨシ、司命ト云ハ、譬ヘハ慶尚  
道嶺南ナレバ、嶺南ノ司命ト大書スルヨシ、  
○令旗ハ、諸軍ヘシメシ、命ヲ傳ヘ、科人等ヲ捕ヘ  
ル時ニ持越シ、又ハ檢分事等ノセツ、一將ヘ渡  
スヨシ、  
○肅静ハ、豎二尺余、横一尺余ニシテ、柄ヲ付ケ、裏ニ  
虎ノ頭ヲ画キ、肅静ノ二字ヲ表ニ書シ、之ヲ持  
ス、  
○旗ノ内ニ、豹尾旗ト云フアリ、長キ旗ニ、虎ノ尾  
ヲ画キタルナリ、

○陣中ニ号令スル時ハ、肅静ノ虎又前ニ出シ、豹尾旗又後ニ立テ、中ニ將帥立テルヨシ、此時軍中ハ、物ノ語リヲ禁ズ、若シ法ニ犯ス者アレバ、斬罪ナルヨシ、

○科擧又第ハ、三年目ニ一度催スヨシ、又國ノ大慶等ノ節ハ、不時ニ催ス。ア、前年ノ秋ヨリ始ム之ヲ初試ト云、翌年ノ春ニ催スヲ覆試ト云、又秋ヲ殿試ト云、此三度ヲハヅレズ、等ノ内ニ入ル人ヲ撰ビ出シテ、一等ヨリ二等三等ト、段々ニ差等ヲ立テ置キ、篤ト檢査ヲ遂ク、右ノ

人員ヲ用ユルヨシ、

○大科ニ登用ノ人員、文ハ議政ノ人一員、正二品以上二員、正三品以下四員、武ハ正二品以上二員、正二品以下四員、

○此ノ大科ニ登ル人ハ、元縣令以上ノ人ニテ、邊鄙ノ孝悌ヨリ、急ニ狀元ニナルトハ之レ無キヨシ、

○朝鮮國ハ、土民ニテモ、孝問有レハ、昇進之レ無キト申テ、土民ニテモ、左ノ小科迄ハ至ルヨシ、大科マテ昇タル者ハ、一生ノ内ニ、稀ナル

ヨシ、大科ヲ濟シタル人ヲ堂上ト云、

○漢城府ハ、京中ノ諸民奉行所ナリ、此ノ府ヨリ  
文官一百三人、武官三十五人、

○忠清道全羅道ヨリ文官九十名、武官二十五名、

○慶尚道ヨリ文官一百名、武官三十名、

○江原道平安道ヨリ文官四十五名、武官十名、

○黃海道咸鏡道ヨリ文官三十五名、武官十名、

○右ヲ小科ト云ヒ、何モ堂下ノ部ニテ、此中ヨリ

各道ノ郡守縣令以下ニ登用ス、又京中諸役所  
ノ教授ニモ、任用スルヲアリ、武官ハ各道ノ僉

使萬戸以下、京中五軍門ノ千總以下ニ用ユル  
ヨシ、

○鄉試ト云ハ、各道ノ州府ニ於テ、之ヲ試ム本書  
ハ其人ノ封ノマヽ都ニ登セ、都ニテ之ヲ開封  
ス、等内ニ入ル時ハ、其府へ報知ス、使道ヨリ其  
手數ヲ歷テ、都ニ登セルヨシ、雜費許多ニテ、出  
身ヲ遂ルル人ハ、稀ナルヨシ、

○及第式ハ、國王并百官大成殿ニ出座有リテ、國  
王自身テ、詩ノ題ヲ出ス、之ヲ藝文館ノ大提學  
大字ニ書シ、殿庭ニ示スヨシ、及第ノ人々、其前

庭ニ於テ、大傘ヲ以テ、日ト雨トヲフセギ、或ハ五人十人ツ、並ヒ居テ、詩ノ題ヲ見テ、各々筆ヲトリ、先ヅ此題ハ何ノ内ニアルト云フ義ヲ、明ニ記シ、各々詩一句ノ式ヲ作シ、各封シ、殿上ニ差出シ、悉皆揃ヒタル上ニテ、大提學其封ヲ開キ、高ラカニ讀ス、一等ト、二等ト、段々ニ之ヲ分ツ、其側ニ領事一名、大司憲一名、知事一名、見届ケルヨシ、一等ノ部式ハ若干、五等ノ部式ハ若干、十五等ノ部式ハ若干ト、撰ビ出シテ、國王ノ前ニ、差出ス、之ヲ再撰シテ、又一等ノ中ヨリ、

一等二等ト段々ニ調ベヲ付ケ、猶又諸官評議ノ上ニテ、確定スルヨシ、

○凡何ノ詩狀元ト呼出シ、皮封ヲ切テ、其人ノ姓名等ヲ引合ス、詩主ハ、階下ニ伏クス、承官ヨリ其姓名ヲ披露ス、

○國王ハ、龍床ニ座シ、紅キ尾扇ヲ以テ、科擧ノ者ノ進退ヲ指圖スルヨシ、

○又國王ノ前ニテ、酒三獻ヲ賜フ者ハ、簪一尾ヲ臺ニ載テ出スヨシ、酒濟テ左ノ賜物アリ、

○紗帽冠一ツ、御賜花一枝桂作花ナリ、紅牌一ツ、



○右ノ三品ヲ拜領致シ、階下ニテ、紅牌ヲ胸ニハ  
 サシ、紗帽ヲ冠シ、桂花ヲ頭ニ粧ヒ、鞠躬再拜ヲ  
 ナシテ、退クヨシ、殿門ノ外、成均館ヨリ、從者ヲ  
 差出シ、及第人ヲ護送ス、及第人三日ノ暇ヲ給  
 リ、三日ヲ過ギテ、役ヲ蒙ルヨシ、

○除授ト云フアリ、科擧ヲ終リ、直ニ勤ヲ申付ラ  
 ル、トアリ、音前ト云ハ、追テ何官ノ明キヲ見  
 テ、用ヒラル、ヨシ、

○大科ハ勿論ナリ、小科ノ輩ヘモ、郡令ニ初テ用  
 ヒラル、時ハ七件ノ試ミアリ。農桑盛○戸口

增○學校興○軍政修○賦役均○詞訟簡○奸  
 猾息

○武官ノ及第ニハ、弓ヲ第一トシ、其次ニ太刀槍  
 ヲ以テ、一藝ツ、及第之レ有リ、又六韜（略）三略等  
 ノ書ヲ、國王前ニ於テ、詳ニ講ゼシム、中樞府ノ  
 領事兵曹ノ判書之ヲ正ス、又國王ノ前ニ於テ、  
 等ヲ差別シ、兵曹ノ判書ヨリ、委敷吟味ノ上ニ、  
 大科ニ登セテ、賜物アリ、

○弓ノ及第ノ場ハ、城内ニ在リ、國王モ出張スレ  
 也、多クハ領事判書大司憲ヲ初メ、其外諸官出

張之レ有ルヨシ、弓ヲ試ムニハ、間合百歩ニメ、  
 向ニ綱ヲ張り其下ハ五幅計ノ幕ヲ以テ、十餘  
 間ノ所へ張ル、先ヅ強弓ヲ携へ、矢三本ヲ持ス、  
 矢ノ重サ六十目ナルヨシ、此矢三本共ニ綱ヲ  
 越セバ其人撰ビ出サル、又平常ニ、取扱フ弓矢  
 ヲ以テ、的ニ試ミ、等ヲ分ツトモアリ、  
 ○弓ノ長サ、鯨尺ニテ三尺三寸三歩ヲ平弓ト云、  
 ○雜科ト云ハ、他國ノ言語ヲ初メ、炮鎗劔何レモ、  
 一藝ニテ、及第之レ有リ、炮ハ間合百歩ニメ、敵  
 二人ノ塑像ヲ居へ、三度放テ、三度中ルヲ選ビ

出ス、鎗ハ馬上ニテ揮フ、兩邊ニ歩武者木鎗ヲ  
 以テ、十人ガカリ、拍ヘルヨシ、馬上ニテ馳セ、技  
 ケル人ヲ、突キ落セバ、其突キ落シタル人ヲ、撰  
 ビ出ス、又馬上ノ人が無事ニテ、馳通ル時ハ、其  
 無事ナル人ヲ、撰ヒ出サル、劔ハ數十人左右ニ  
 別レ、双方共ニ、劔ヲ以テ打合ヒ、敵ノ笠ヲトリ  
 タル人ヲ、撰ヒ出スヨシ、

朝鮮聞見錄卷之下終

明治八年亥三月官許  
同年十月刻成

定價五十錢

日本橋通壹町目七番地寄留

編輯者  
出版人

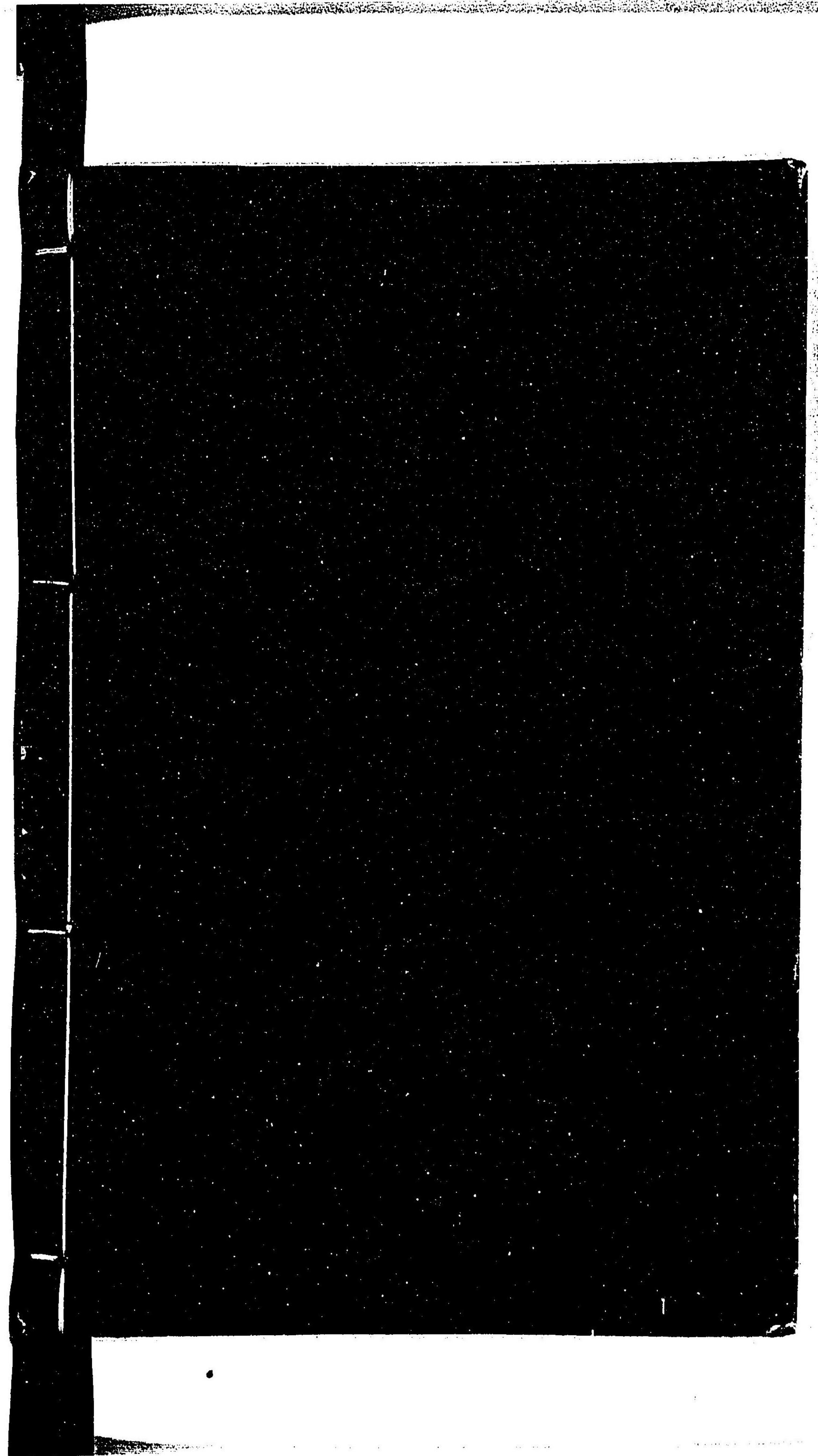
佐田白芽

賣弘人

同通二町目十九番地

稻田佐兵衛

3
合
14



3  
14

026426-000-1

3-14

朝鮮聞見録

佐田 白茅/編

M8

ADD-0079

